宮城県文化財調査報告書第90集

宮城県文化財発掘調査略報

（昭和 56 年度分）

昭 和 57 年 3 月

宮 城 県 教 育 委 員 会

はじめに

私達の生活している宮城県内には、先人がのこした数多くの遺跡があります。これらの文化遺産は、豊かな自然環境と長い歴史の中で創造し、育くんできたものであり、これを愛護し、活用するとともに後世に伝えていくことが現代の私達に課せられた重要な責務であると考えます。近年、地域開発の事業が進展することに伴ない、埋蔵文化財の保護が一層重視されてきているのもその線に沿ったものであります。

本略報は、県教委が昭和56年度において発掘調査を担当した遺跡のうちで、年度内に本報告書を作成するにいたらない遺跡について、調査成果の概要をまとめたものであります。本書には、七ケ宿町の小梁川遺跡、志津川町の大平館跡、唐桑町の藤浜貝塚、迫町の佐沼城跡、白石市の保原平遺跡の計５遺跡をおさめました。このうち小梁川遺跡だけは、県教委の主体の調査ですが、他の４遺跡は、それぞれの市町教委が主体のものです。

なお、留沼遺跡は、県教委が昭和49～50年度に調査したものです。

昭和 57 年 3 月

宮城県教育委員会　教育長　**北　村　　潮**

目　　次

(1) 小梁川遺跡…… 1

(2) 保原平遺跡…… 17

(3) 大平館跡…… 25

(4) 佐沼城跡…… 35

(5) 藤浜貝塚…… 41

(6) 留沼遺跡・第１号住居跡出土の炭化米粒 …… 55

国分寺市文化財審議会委員　佐藤　敏也

例　　言

1．本書は昭和57年度発掘届一覧表と宮城県教育委員会が主体あるいは担当となって調査を行った５遺跡について調査内容を簡略にまとめたもの、東北新幹線関係留沼遺跡出土の炭化米分析結果を収録した。

2．留沼遺跡の炭化米は佐藤敏也氏に分析をお願いした。

3．本書収録の図面、写真は最少限にとどめた。なお地形図は建設省国土地理院発行のものを使用して複製した。

小梁川遺跡――1/5万「白石」「関」

大平館跡――1/5万「志津川」「登米」

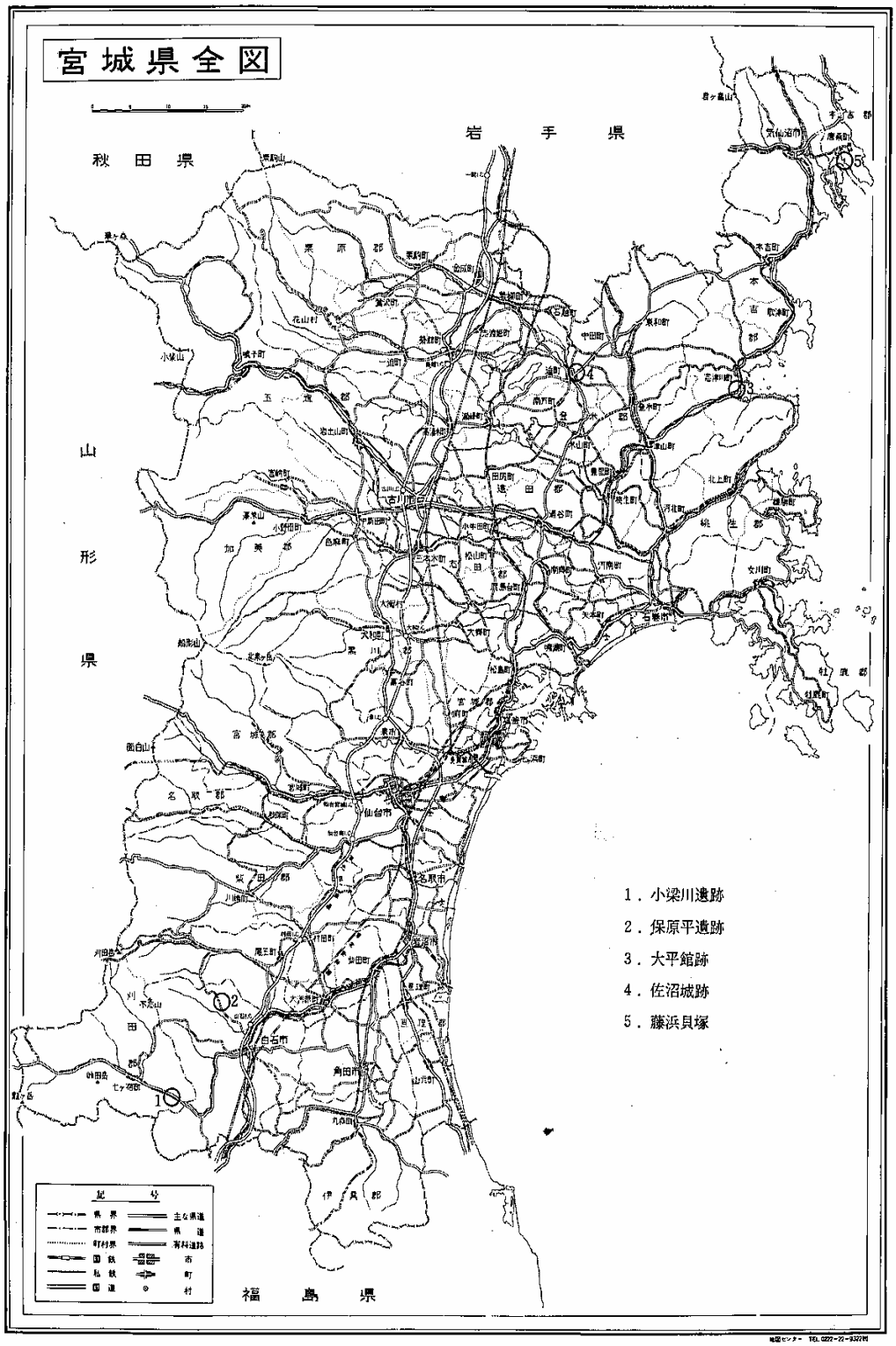
藤浜遺跡――1/5万「気仙沼」

4．発掘調査は宮城県教育庁文化財保護課が担当し、各市町教育委員会の協力をいただいた。

5．本書の執筆、図版等の作製は、文化財保護課員の協議を得て下記の者が担当した。

小梁川遺跡―新庄屋元晴　　保原平遺跡―土岐山　武　　大平館跡―相原　淳一

佐沼城跡―狩野　正明　　藤浜貝塚―加藤　道男


宮城県全図
岩手県
秋田県
山形県
福島県
1．小梁川遺跡
2．保原平遺跡
3．大平館跡
4．佐沼城跡
5．藤浜貝塚
記号
県界
市郡界
町村界
国鉄
私鉄
国道
主な県道
県道
有料道路
市
町
村

(1)小梁川遺跡

調　査　要　項

遺跡所在地：刈田郡七ケ宿町字小梁川・板沢・白ハゲ地内

遺 跡 記 号：ＪＣ（遺跡地名表登載番号：　　）

調 査 期 間：昭和56年4月21日～10月31日

調 査 面 積：約45,000㎡

発 掘 面 積：約37,220㎡

調 査 主 体：宮城県教育委員会・建設省東北地方建設局七ケ宿ダム工事事務所

調 査 担 当：宮城県教育庁文化財保護課

調　査　員：佐々木　茂槙・新庄屋　元晴・加藤　道男・真山　　悟
菊地　淳一・相原　淳一・小徳　　晶

調査協力機関：七ケ宿町教育委員会・東北歴史資料館・東北大学

１．調査に至る経過

小梁川遺跡は、宮城県刈田郡七ケ宿町字小梁川地内にあり、七ケ宿ダムの建設と係り合いをもった。

七ケ宿ダムは、七ケ宿町渡瀬の白石川に築かれ、阿武隈川水系の洪水防止のほか、広域水道工業用水、かんがい用水の多目的ダムとして東北地方建設局が計画し、七ケ宿ダム工事事務所が事業を実施している。今年度に入り、いよいよダム本体の基礎工事が始まり、国道113号付替のための工事も着工されている。工事の完成は昭和63年度と見こまれており、ダムの最大貯水量は１億900万トン、湛水面積は4.1平方キロに及ぶ。

宮城県教育委員会は、東北地建七ケ宿ダム工事事務所の依頼によって計画区域全体の遺跡の分布調査を実施したところ、18遺跡が係り合いをもつことが判明した。湛水区域内にふくまれる遺跡が13、国道や林道の付替にかかる遺跡が５である。

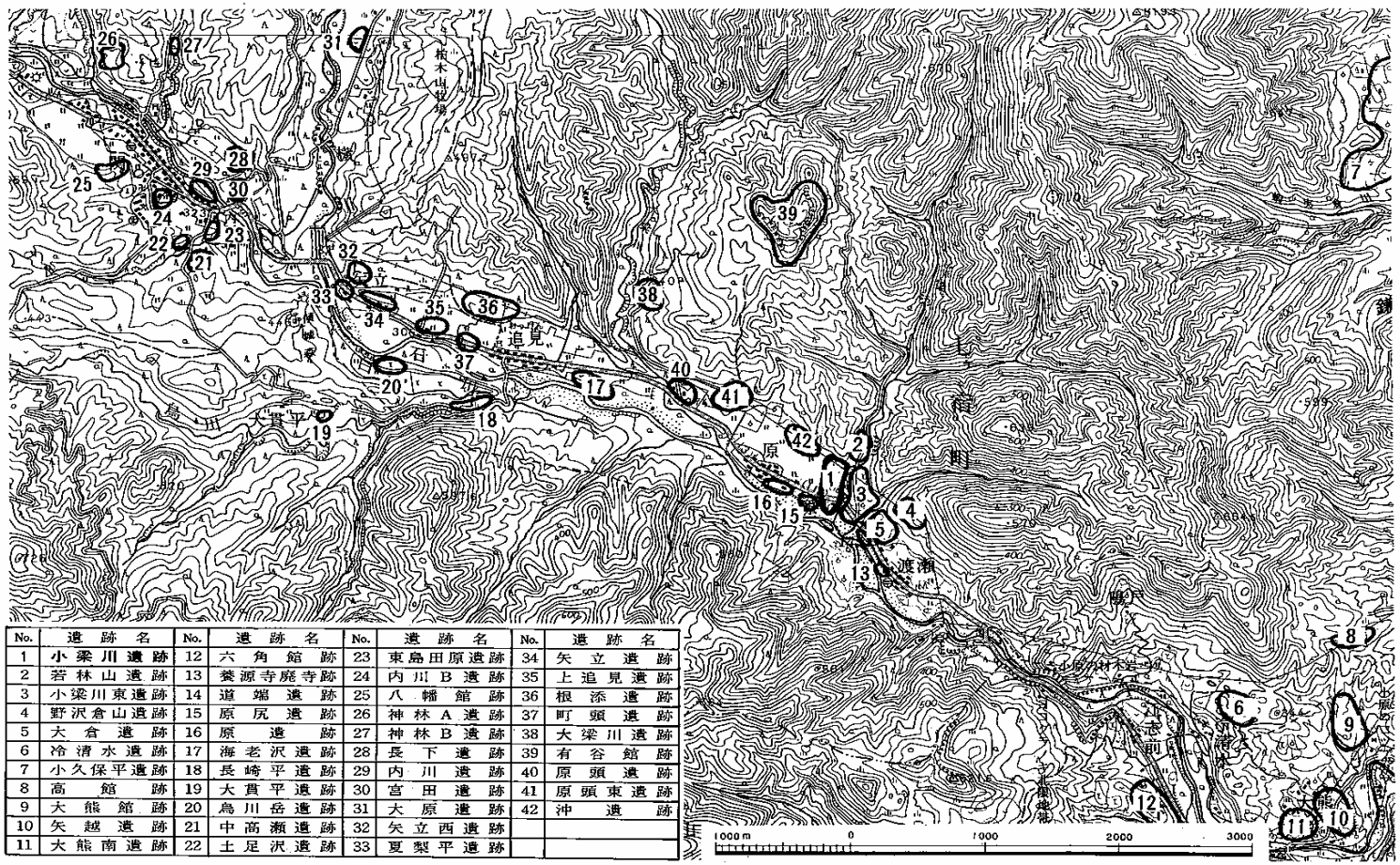
そこで、七ケ宿ダム工事事務所とこれら遺跡の取扱いについて再三の協議を重ねた結果、本年度より遺跡の調査を実施することになり昭和56年4月21日から発掘調査を行ない10月31日をもって本年度の調査を終了している。

２．位置と環境

七ケ宿町は、白石川の上流、奥羽山脈の山懐にあり、南と北は山が迫り、中央部は清水を集めて白石川が東流する。川沿いには耕地が東西に長く開け、町の西端は山形県と境する。

小梁川遺跡は、七ケ宿町の中心地、関から東方へ約５㎞の小梁川、板沢、白ハゲ地内に所在し、東流する白石川の左岸、河岸段丘上に位置する。現状は、畑地、水田、果樹園、山林、宅地などからなり、遺跡の中ほどを東西に国道113号線が横切っている。遺跡の東辺は、白石川の支流、小梁川が南流し段丘崖となっており、小梁川を隔てて対岸には、縄文土器や土師器を出土する小梁川東遺跡がある。さらに野沢を隔てて縄文土器を出土する大倉、道端の両遺跡が連なる。遺跡の西辺は、南西に縄文土器を出土する原尻遺跡が隣接するが、他は、水田が伸びている。東西約150m、南北約400m、面積約45,000㎡が遺跡の範囲である。標高は、海抜約260m前後で白石川との比高差は約10mほどとなる。

七ケ宿町内には、現在、古墳時代を除き旧石器時代から中世に至る約80ケ所の遺跡が確認されており、中でも縄文時代の遺物包含地は68ケ所を数え、沢の出口付近に位置する傾向がある。すでに発掘調査の実施された長下遺跡からは、ピット群とともに縄文時代中期後半の土器が多数出土している。



No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	小梁川遺跡	12	六角館跡	23	東島田原遺跡	34	矢立遺跡
2	若林山遺跡	13	養源寺廃寺跡	24	内川B遺跡	35	上追見遺跡
3	小梁川東遺跡	14	道端遺跡	25	八幡館跡	36	根添遺跡
4	野沢倉山遺跡	15	原尻遺跡	26	神林A遺跡	37	町頭遺跡
5	大倉遺跡	16	原遺跡	27	神林B遺跡	38	大梁川遺跡
6	冷清水遺跡	17	海老沢遺跡	28	長下遺跡	39	有谷館跡
7	小久保平遺跡	18	長崎平遺跡	29	内川遺跡	40	原頭遺跡
8	高館跡	19	大貫平遺跡	30	宮田遺跡	41	原頭東遺跡
9	大熊館跡	20	烏川岳遺跡	31	大原遺跡	42	沖遺跡
10	矢越遺跡	21	中高瀬遺跡	32	矢立西遺跡		
11	大熊南遺跡	22	土足沢遺跡	33	夏梨平遺跡		

第1図　遺跡の位置と周辺の遺跡

３．調査の概要

(1)　発見された遺構、遺物

今回の調査対象地区は、国道113号線をはさんで南と北に分れている。南側では、縄文時代前期の住居跡、前期末から中期前葉のフラスコ状土壙、中期前葉の住居跡、埋設土器と遺物包含層などが、北側では、縄文時代中期中葉の住居跡、平安時代の住居跡、掘立柱建物跡などがそれぞれ検出された。

(2)　縄文時代前期の住居跡

国道の南側で縄文時代前期前葉８軒、前期末葉１軒、計９軒が検出された。前者はいずれも４×２m程の不整な長方形を呈しており、壁際を巡る浅く小さな柱穴が特徴的で、31号住居は特に顕著である。またこれらのうち２軒には床面に焼面が検出されたが、他の住居には認められなかった。

29号住居では石匙、石鏃、磨石、石皿などの石器や土器が検出された。32号住居では土器は検出されず床面に633点の砕片及び石鏃、不定形石器が検出された。

後者は28号住居で楕円形を呈するものと思われる。

(3)　縄文時代前期末から中期前葉のフラスコ状土壙

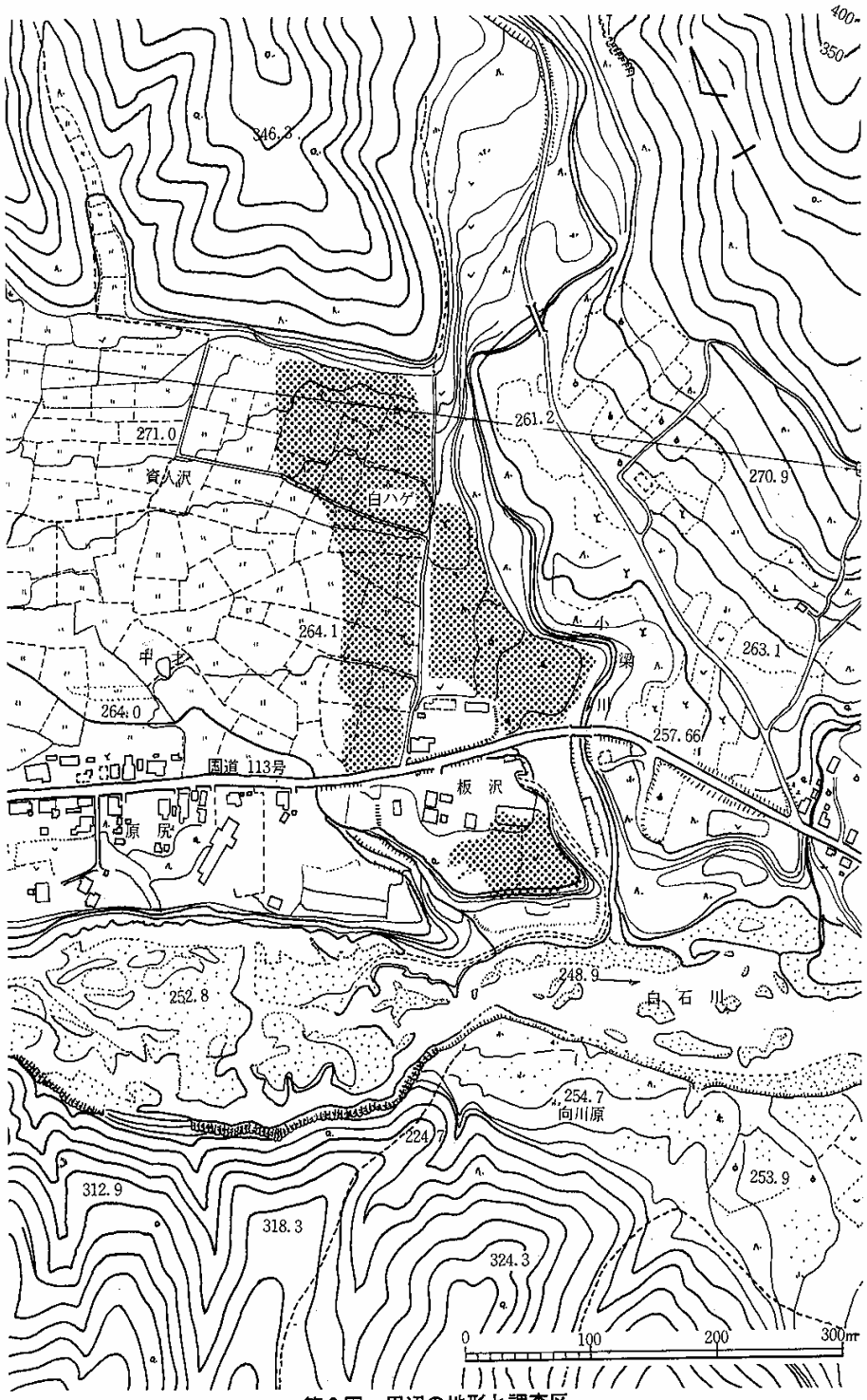
国道の南側で約250基の土壙が検出され、うち約100基がフラスコ状土壙である。フラスコ状土壙の底面はほぼ水平で埋土の状況はほとんどが自然な堆積状況を示している。土器等の出土状態は埋土の上半部から出土することが多く底面から出土する例は少ない。特異な例として、底面及び側壁が焼けているもので焼土とともに炭化した種子（オニクルミ）などが出土している。また、底面中央部にピットを有するものや、側壁にピットを有するものが数例ある。これらのフラスコ状土壙は、遺跡の南端に大きく２群に分かれて検出されている。

(4)　遺物包含層

国道の南側で土壙群の東側にあたる段丘崖に黒色火山灰の堆積した斜面がありその上に包含層が形成されている。包含層の大半は後世の削平を受けているが、残存部で最深部約1m、面積約100㎡を計り、約10枚の層からなる。大半は大木7b式期の遺物を出土する層であり、その下部には微量の大木6、7a式期の遺物を含む層がある。層中には、大小の礫が多量に含まれている。

(5)　縄文時代中期の住居跡

中期前葉４軒、中期中葉３軒、計７軒が検出されている。前者は国道の南側でフラスコ状土壙と重複して検出され、１号住居は直径約６mのほぼ円形を呈し床面中央部に石組炉がある。２号住居は長軸約3.75m×短軸約2.8m、４号住居は長軸約4.4m×短軸約3.7mでともにほぼ楕円形を呈している。これらの床面には焼面が検出され、地床炉を持つものと思われる。後者は国道の北側で平安時代の住居跡などとともに検出されたもので径５～６mほどの円形または楕



第2図　周辺の地形と調査区

円形を呈する。炉は、石組炉を持つもの１軒、複式炉を持つもの２軒である。複式炉の中には土器埋設の複式炉もある。

(6) 埋設土器

国道113号の南側で３基検出されている。３例とも縄文中期前葉のもので土器よりわずかに大きい楕円形の掘り方に土器を横にして埋めている。

(7) 平安時代の住居跡

国道113号線の北側で、19軒検出された。規模は、１辺が３～４mのものから７mを超す大形のものまである。カマドの位置は東側壁に付設されたものが大半で中には南側壁に付設されたものもある。住居内堆積土下部には焼土、炭化物を多く含むものが多く、床面が部分的に焼けているものが多い。住居内出土遺物は、土師器、須恵器、刀子、鉄鏃、鉄斧、フイゴの羽口鉄滓などが出土しており、土師器、須恵器の坏には、「三」「丈」「慈」「下屋」「山本」などと墨書されているものもある。

(8) 掘立柱建物跡

国道113号線の北側で平安時代の住居跡とともに３棟検出された。うち１棟は２間×３間で、柱間寸法は７～８尺を計れ、平安時代の住居に切られている。他の２棟は平安時代の住居を切っているものである。

４．まとめ

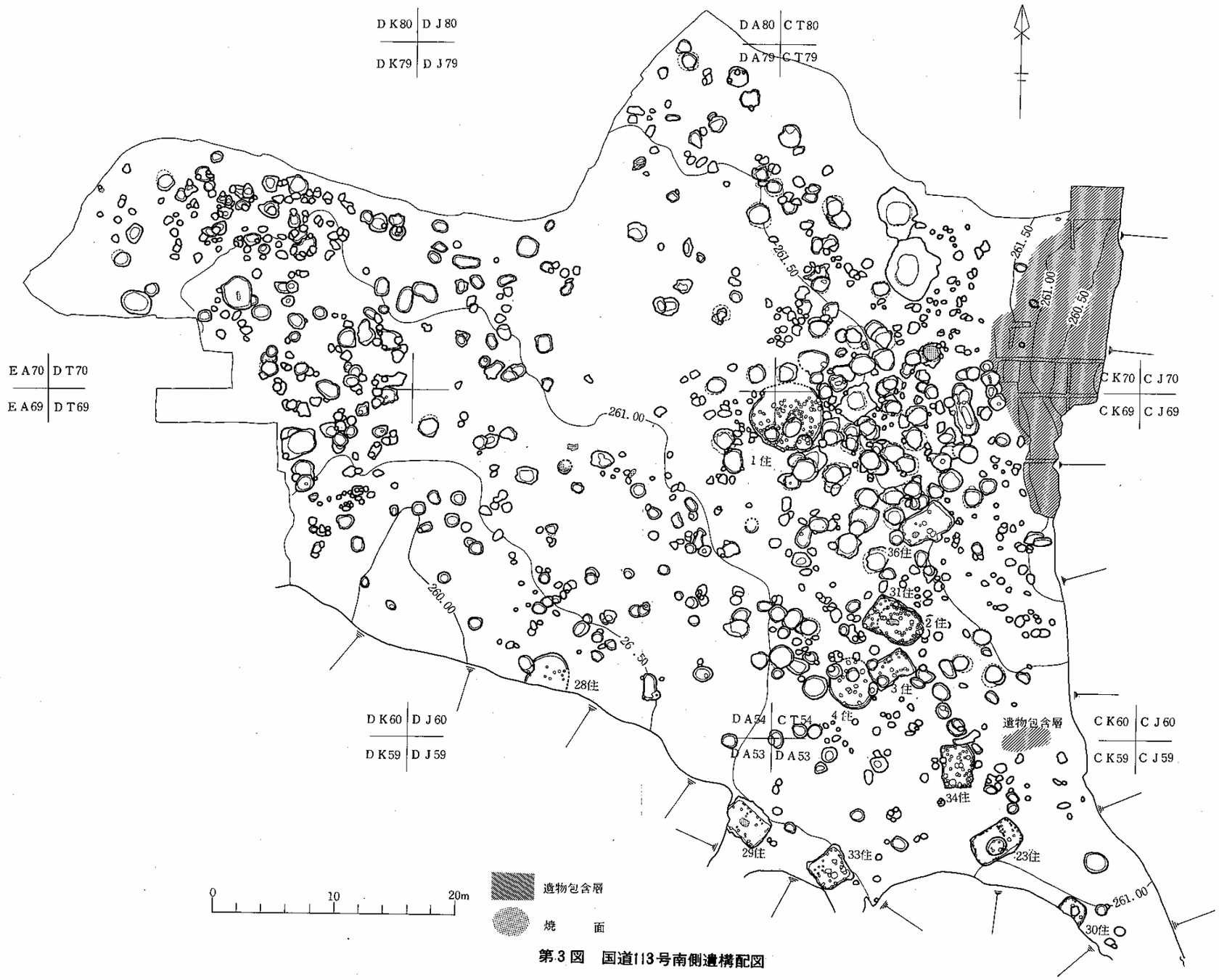
小梁川遺跡は、白石川左岸の河岸段丘上に立地しており、急峻な丘陵を抜け出た小梁川に接する微高地にあたる。遺跡は南北に細長く約45,000㎡の範囲におよぶ、遺跡内東部には段差１mを超える段丘崖がみられ、上位と下位の段丘に分かれる。今回の調査では縄文時代前・中期平安時代の遺構・遺物が発見された。

縄文時代の遺構は全て上位の段丘で検出されており、前期では遺跡南端に前葉、末葉の住居跡が、これよりやや北よりに末葉から中期前葉のフラスコ状土壙が大きく２群に分かれて検出されており、その周囲に埋設土器がみられる。またその東側段丘崖の部分に中期前葉の遺物包含層があり、フラスコ状土壙群と重複して中期前葉の住居跡がみられる。

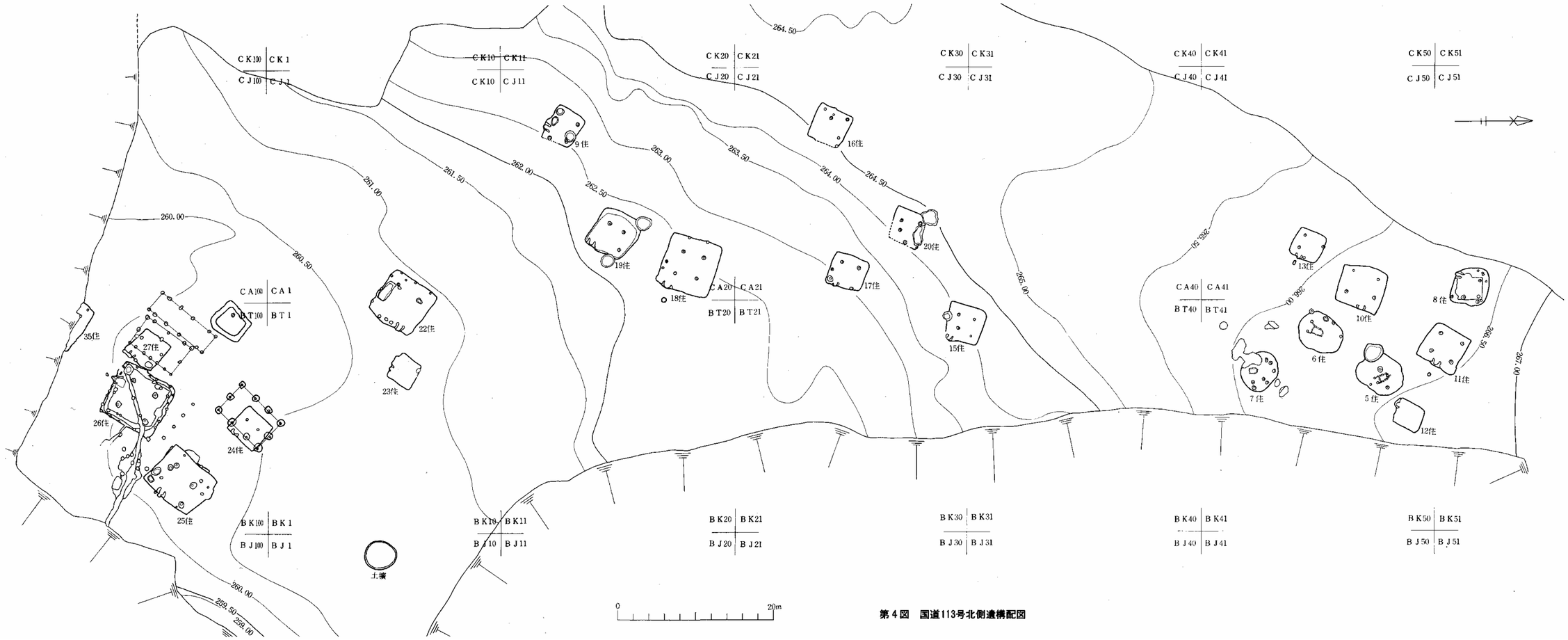
中期中葉には、上記地区にも土器が少量出土しているものの遺構はなく、遺跡北部に住居跡が検出されている。

平安時代には、住居跡と掘立柱建物跡があり、遺跡中央部東側の下位の段丘面から北部上位の段丘面にかけて分布している。

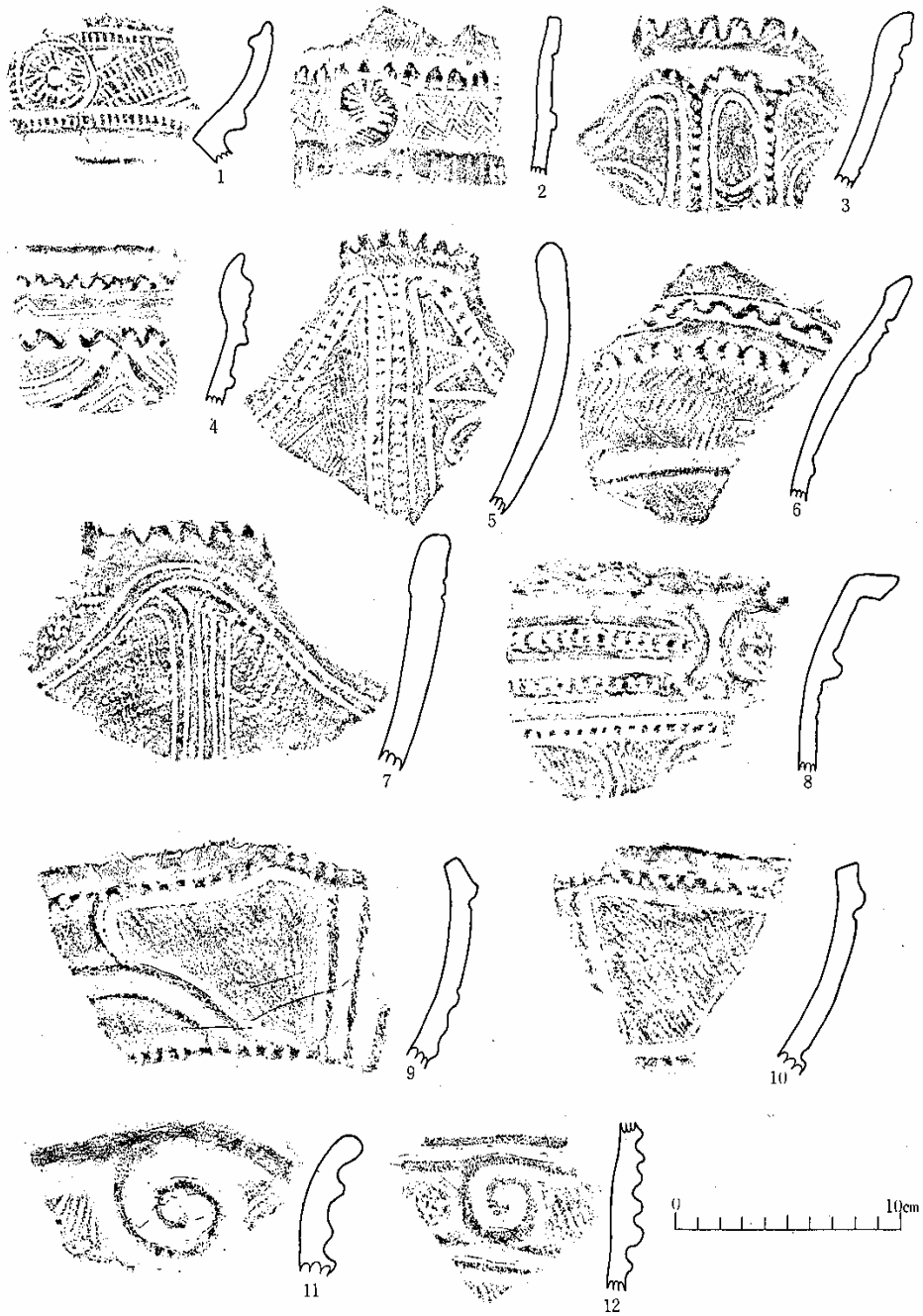
なお、本遺跡の調査は、次年度に残りの約10,000㎡の調査を計画しており、それが終了することにより全容が明らかとなる。



第3図　国道113号南側遺構配図



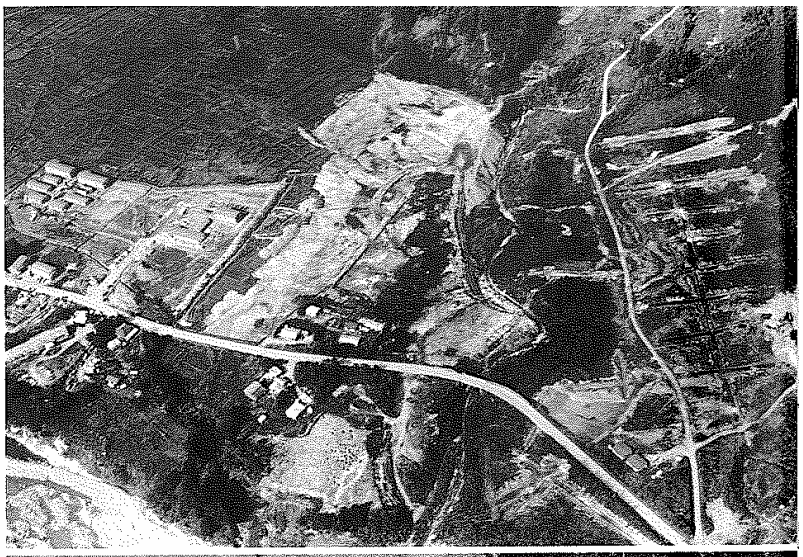
第４図　国道113号北側遺構配図



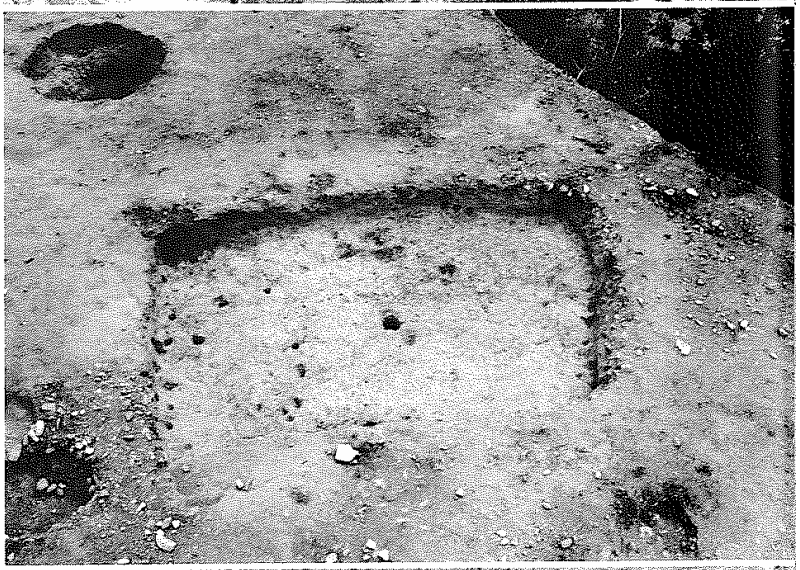
1．DⅢ.DC－73ピット
2．DⅢ.CL－72包含層6層
3．DⅢ.CL－72包含層7層
4．DⅢ.DM－70－1層
5．DⅢ.CL－72包含層3層
6．DⅢ.CL－72包含層4尻
7．DⅢ.CL－72包含層3層
8．DⅢ.土壙98埋1層
9．DⅢ.土壙31埋1層
10．DⅢ.土壙31埋3層
11.12．DⅣ.CB－52－1層

第5図　主な出土遺物

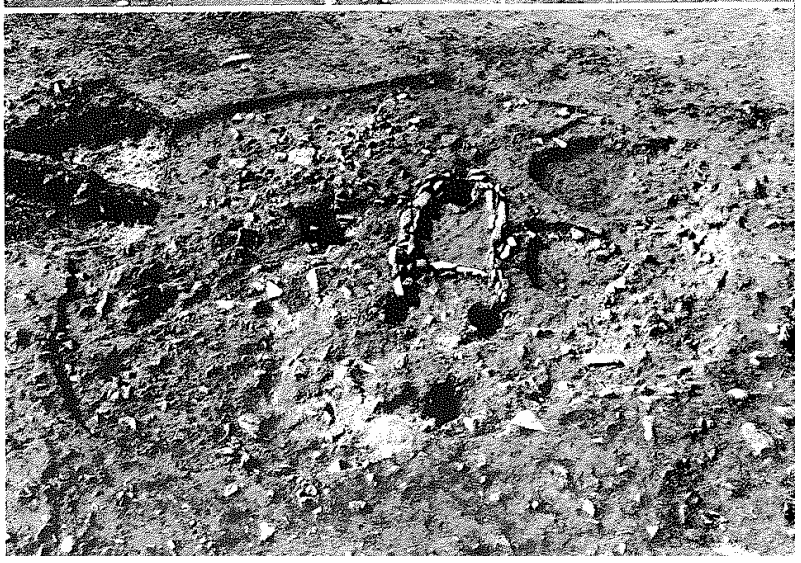
小梁川遺跡全景



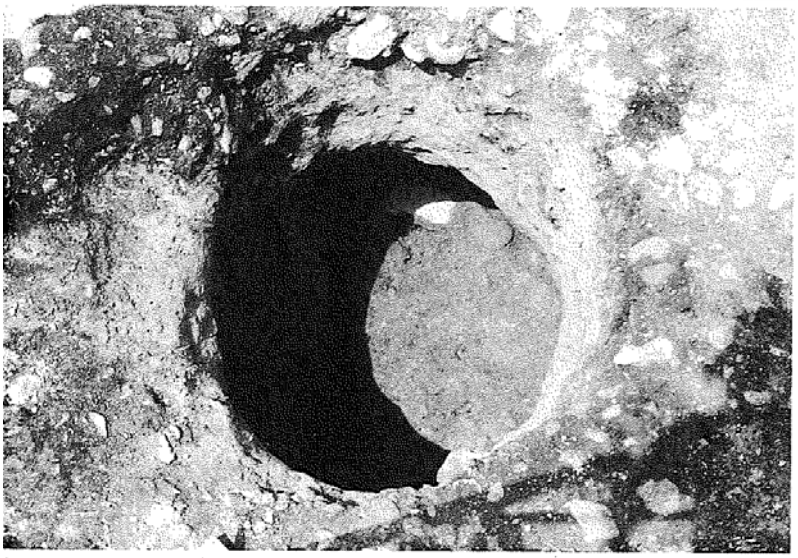
第32号住居跡



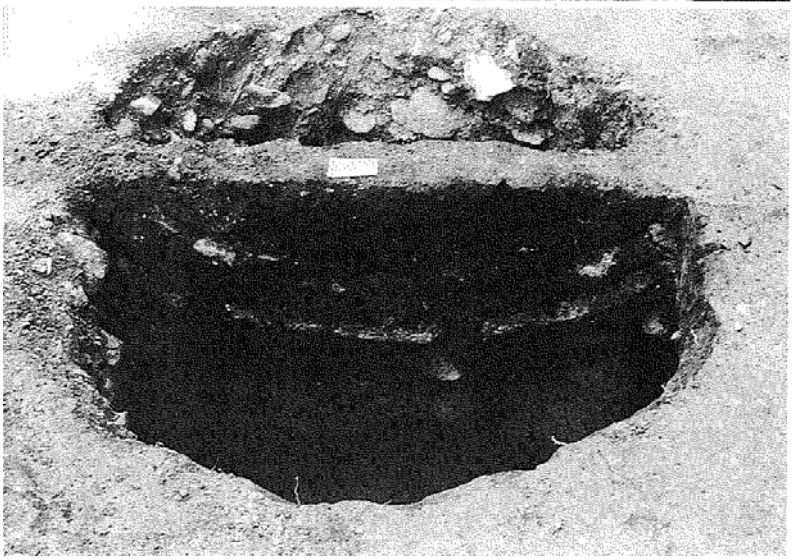
第５号住居跡



土　壙　群

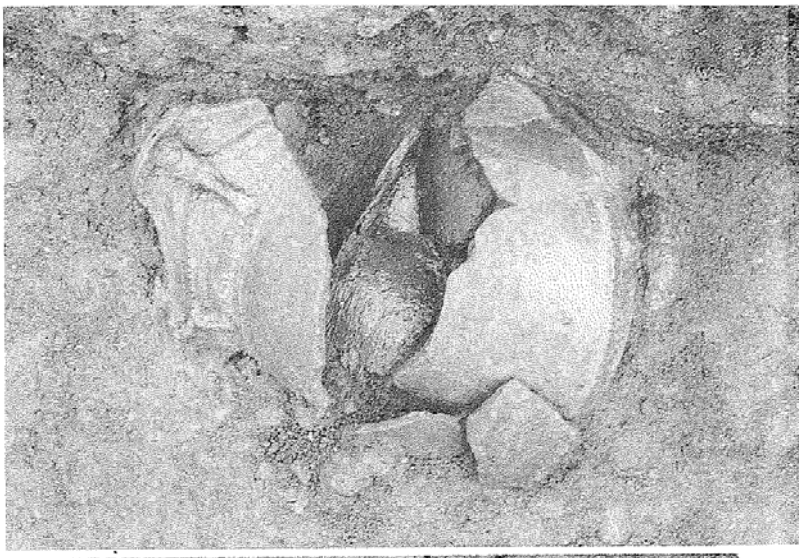


第111号土壙
（フラスコ状土壙）

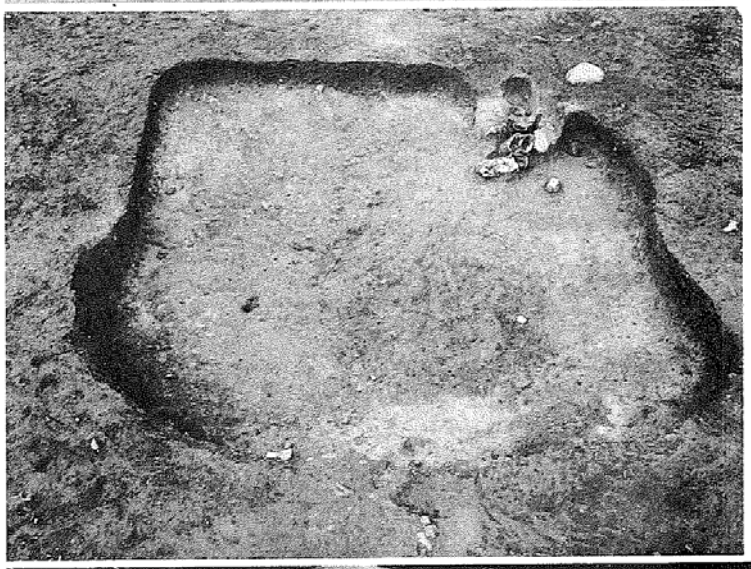


第３号土壙
（フラスコ状土壙）

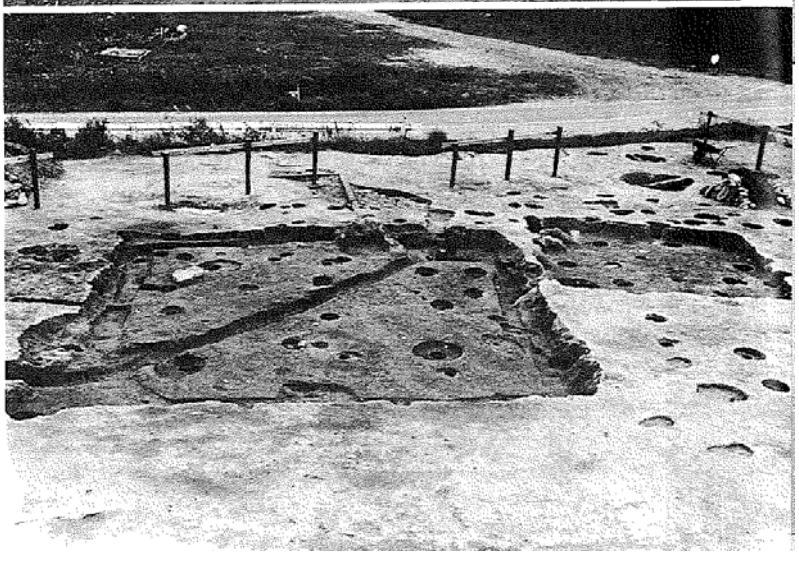
第116号土壙
（遺物出土状況）

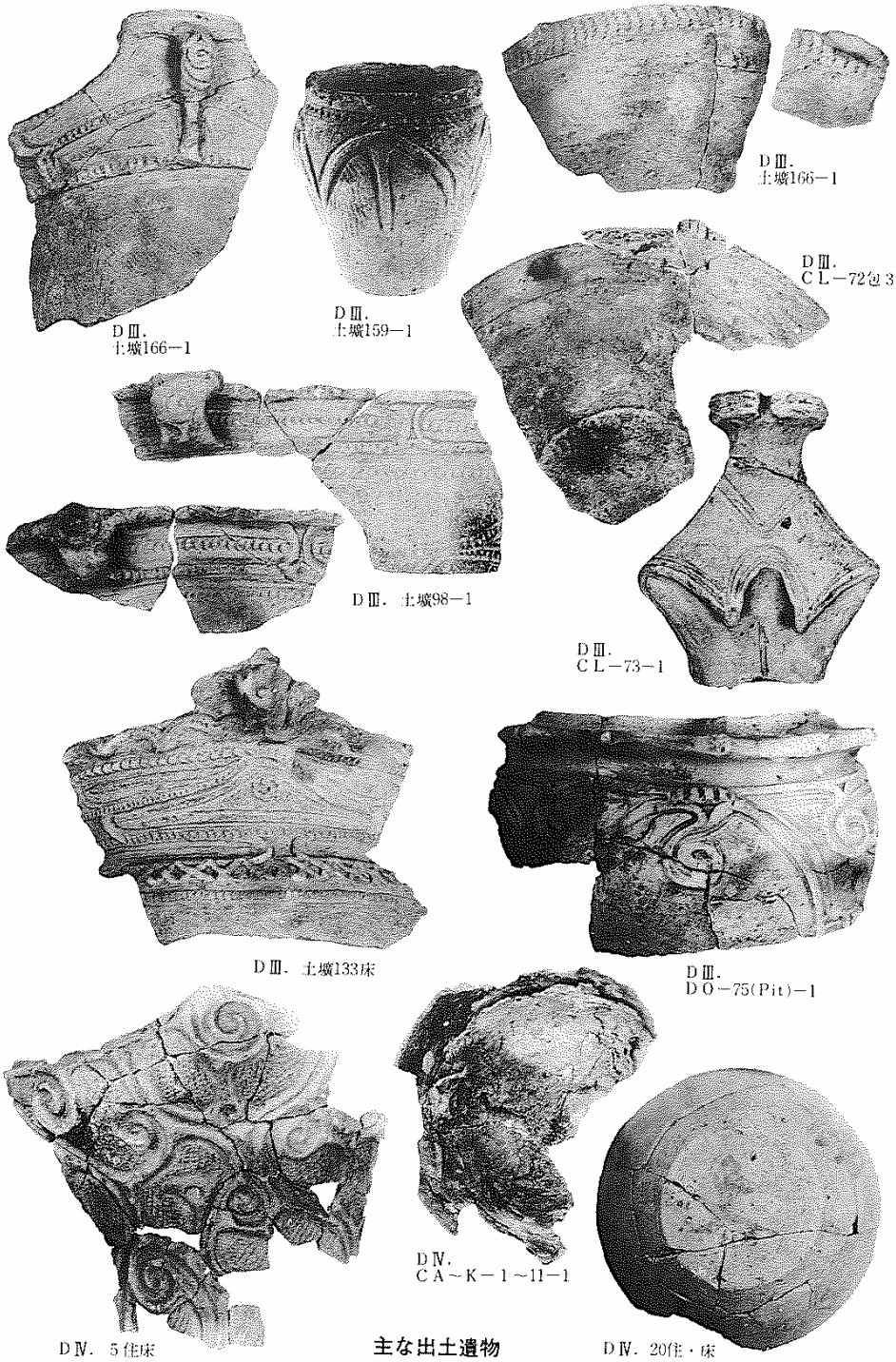


第 8 号住居跡



左：第26号住居跡，
右：第27号住居跡




DⅢ.
土壙166－1
DⅢ.
土壙159－1
DⅢ.
土壙166－1
DⅢ.
CL－72包3
DⅢ. 土壙98－1
DⅢ.
CL－73－1
DⅢ. 土壙133床
DⅢ.
DO－75(Pit)－1
DⅣ.
CA～K－1～11－1
DⅣ. 5住床
DⅣ. 20住・床

主な出土遺物

(2)保原平遺跡

調　査　要　項

遺跡所在地：白石市福岡深谷字保原平

遺跡記号：GW（宮城県遺跡地名表登載番号：　　）

調査期間：昭和56年9月24日～10月3　日

調査面積：約400㎡

発掘面積：約230㎡

調査主体：

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

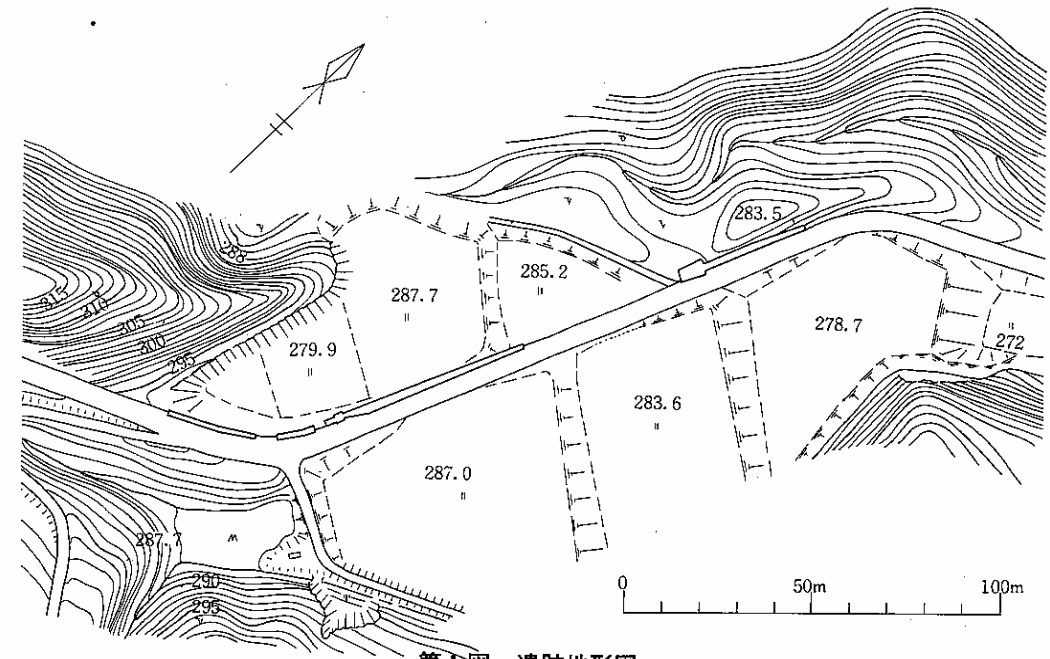
調　査　員：平沢　英二郎・狩野　正昭・土岐山　武

調査協力者：白石市教育委員会

遠藤　　智

１．遺跡の立地

保原平遺跡は、白石市福岡深谷字保原平に所在し、市のほぼ中心にあたる市役所の北西約６㎞の地点に位置している。この地域は青麻山の南麓にあたり、大小の谷や沢が複雑に入り込んだ丘陵地になっており、本遺跡の北側には児捨川の一支流である金成沢川が、南側には小さな沢がみられ、遺跡はこれらにはさまれた小台地上に営まれている。現在、この小台地は開田により大きく削平されており、小台地のほとんどが水田となっている。標高は280～300mである。



第１図　遺跡地形図

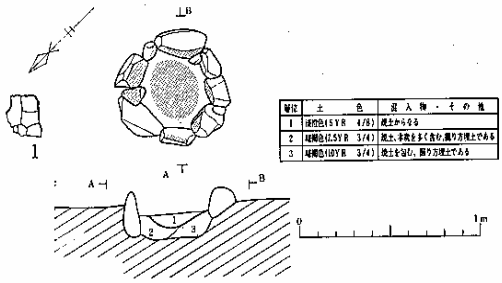
２．調査の概要

白石と三住を結ぶ白石－不動滝線の舗装および一部拡幅工事にかかる約 400 ㎡を対象に調査区を設定し、約230㎡を発掘した。その結果、第３層（黒色土層）中に遺物の存在が確認されたが、この黒色土層は部分的にない所もあり、しかも現道路工事や開田の際と思われる攪乱が所々にみられた。遺構としては調査区北側から石囲炉跡が検出され、遺物としては調査区全体の表土および第３層中から平箱２箱程度の縄文土器と約10点の石器が出土した。なお、縄文土器はほとんどが第３層中からの出土だが、大部分が小破片であり、しかもこの層内に数型式に及ぶと考えられるものが混在していた。その概要は次の通りである。

石囲炉とその出土遺物

石囲炉（第２図）

調査区北側第２層上面で確認された。直径約60㎝の円形の石囲炉である。円形に並べられた長さ20～30㎝の７個のやや縦長の礫とそれら礫間に置かれた長さ約10㎝程の４個の礫とからなる。礫の内側は火熱を受けた跡があり、炉底面には焼土が多くみられた。

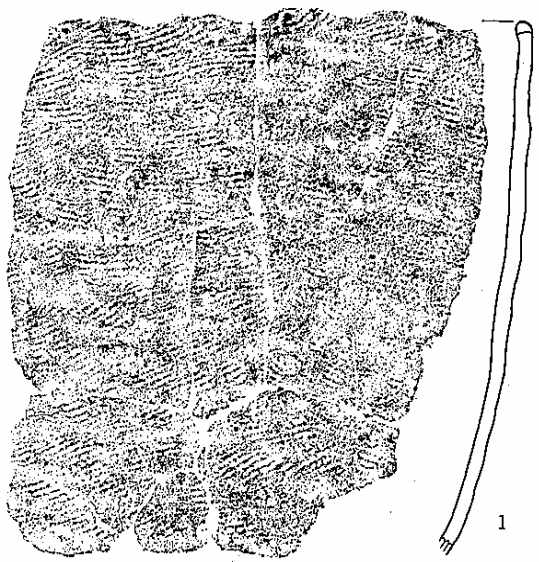


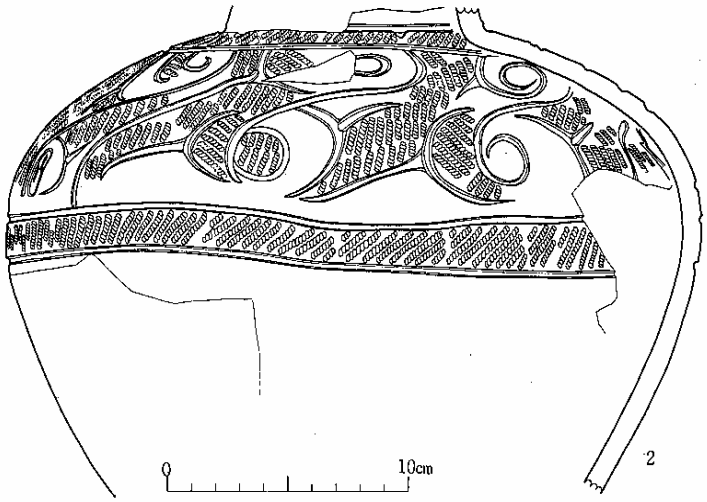
層位	土色	混入物・その他
1	褐灰色(5YR 4/1)	焼土からなる
2	暗褐色(7.5YR 3/4)	焼土、木炭を多く含む。締り方焼土である
3	暗褐色(10YR 3/4)	焼土を含む。締り方焼土である

第２図　石囲炉

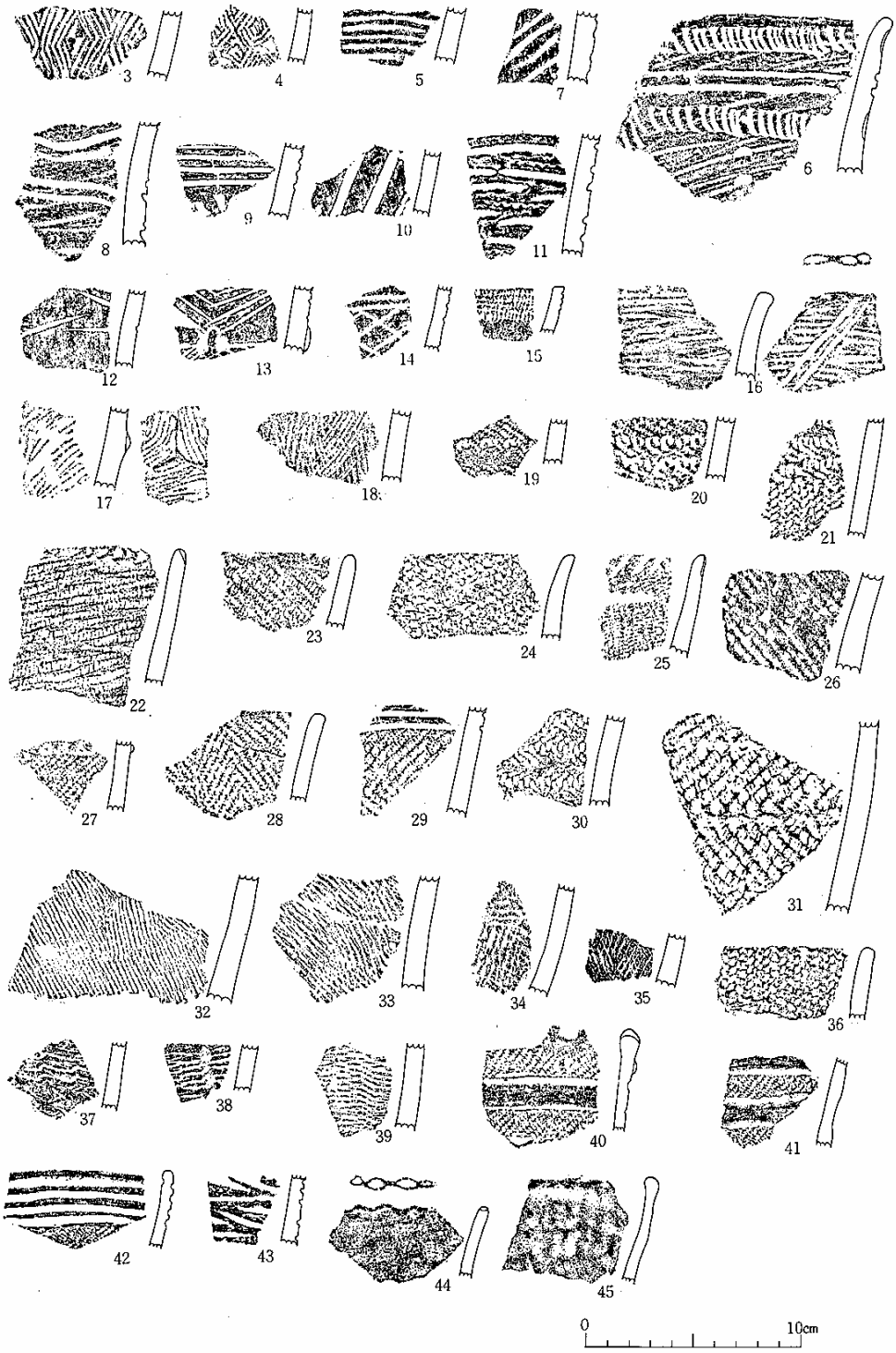
出土遺物（１、２）

石囲い炉と同面から１が、石囲い炉堆積土中から２が出土している。１は口縁部破片である。小波状口縁でやや内弯ぎみに外傾する。粗製深鉢形土器である。２は口縁部と底部を欠損した体部破片である。体部上半部で大きく内弯し頸部でやや直立ぎみに内傾する壺である。頸部近くと体部上半部に沈線で区画された縄文帯が横走し、その間に上下二段に流れるような魚眼文がみられ、それらが曲線によって連結されている。２は後期末あるいは晩期初頭に位置づけられるもので、





第３図　出土遺物



第４図　表土および堆積層出土の遺物(1)

このことから石囲炉も同時期と思われる。なお、１も炉と同一の面から出土しており、石囲炉とあまり違わない時期のものと思われる。

表土および堆積層出土遺物

縄文土器（第４図３～45）

口縁部53点、体部686点、底部10点出土している。時期的には断続的ではあるが、早期前葉から晩期までのものが出土している。

早期前葉の土器群（３～５）

いわゆる押型文が施文されている土器である。研究者によってさまざまな名称があたえられているが、３は重層菱形文、４は菱形構成文、５は平行線状文といわれているものである。

早期中葉の土器群（６～15）

太沈線文や細沈線文が施されている土器である。沈線は直線的なものが多いが、８のように雑な曲線のものもある。11は沈線間に貝殻腹縁文が施文されており、15は沈線上に絡条体圧痕文が施文されている。

早期末葉の土器群（16～18）

条痕が施文されている土器である。16、17は裏面にも条痕がみられる。いずれも繊維を多く含んでいる。

早期末葉～前期初頭の土器群（19～36）

一番多く出土している。ループ文（19～21）、縄文（22～27）、羽状縄文（28～31）、撚糸文（32～35）、組紐回転文（36）が施文されている土器である。21はループ文と組紐回転文が同一土器に用いられている。原体が０段多条の縄文（23、29）、結節された羽状縄文のもの（30）などもみられる。すべて繊維を含んでいる。

前期初頭の土器群（37～39）

葺瓦状撚糸文が施文されている土器である。すべて繊維を含んでいる。

後・晩期の土器群（40～43）

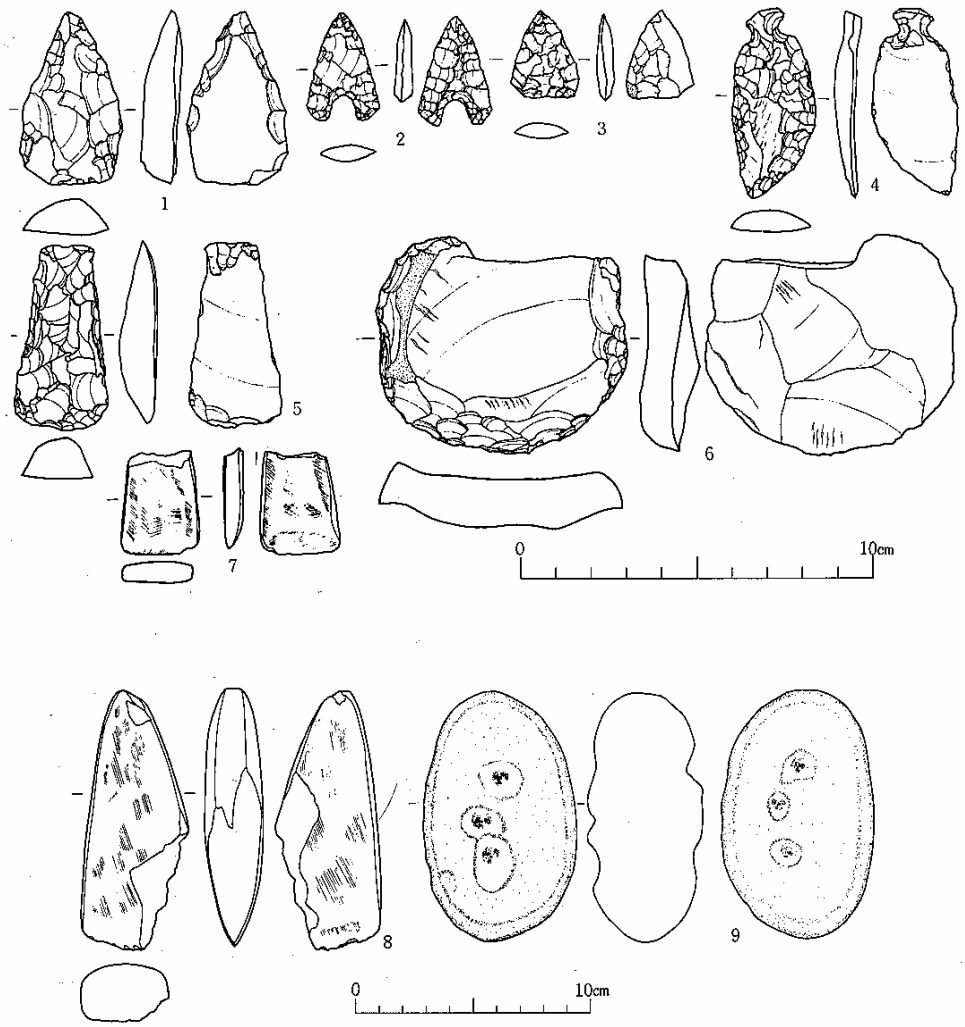
出土数が非常に少なく、ここに図示したものがほとんどである。

時期不明の土器群（44、45）

いずれも無文である。44は口唇部に刻目が施されている。45は口唇部が丸みをおびて肥厚しており、器表には凹凸がみられる。

石器（第５図）

石槍１点（１）、石鏃２点（２、３）、石匙１点（４）、石篦１点（５）、不定形石器１点（６）などの剥片石器とその素材となった剥片39点、磨製石器として石斧２点（７、８）、礫石器として凹石が１点（９）出土している。



第5図　表土および堆積層出土の遺物(2)

3．まとめ

1．本遺跡は三本木川と沢とによってはさまれた小台地上に立地している。

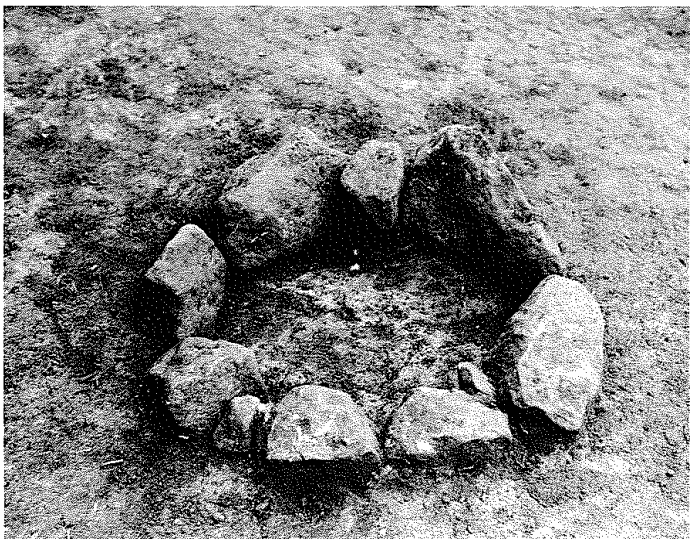
2．今回の調査で発見された遺構には縄文時代後期末あるいは晩期初頭の石囲炉が、遺物には縄文土器、石器とがある。

3．縄文土器はほとんど第3層中から出土している。時期的には早期末～前期初頭のものがほとんどであるが、ほとんどが小破片であり、しかも同一層中に早期初頭～晩期までの土器が混在していることなどより、再堆積層の可能性がある。

トレンチ近景
（東側より）

トレンチ近景
（西側より）

石　囲　炉



(3)大平（おおひら）館跡

調　査　要　項

遺跡所在地：本吉郡志津川町戸倉字折立

遺跡記号：ＧＵ（宮城県遺跡地名表登載番号：　　）

調査期間：昭和56年10月5日～10月16日
昭和56年11月4日～12月4日

調査面積：約10,000㎡

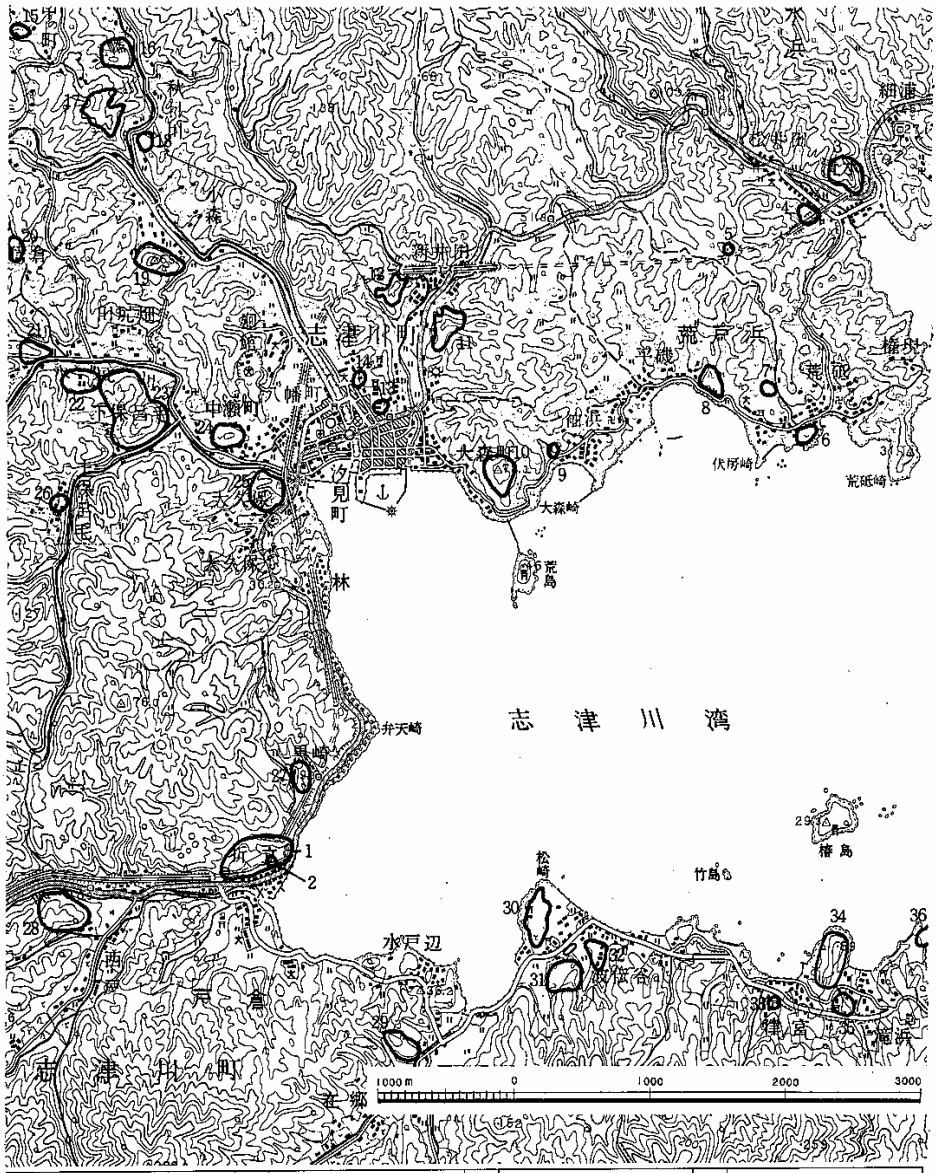
発掘面積：約5,400㎡

調査主体：志津川町教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調　査　員：佐々木　茂楨・新庄屋　元晴・斉藤　吉弘・土岐山　武
菊地　淳一・菊地　逸夫・小徳　晶・相原　淳一

調査協力者：佐藤　孝吉（地権者）



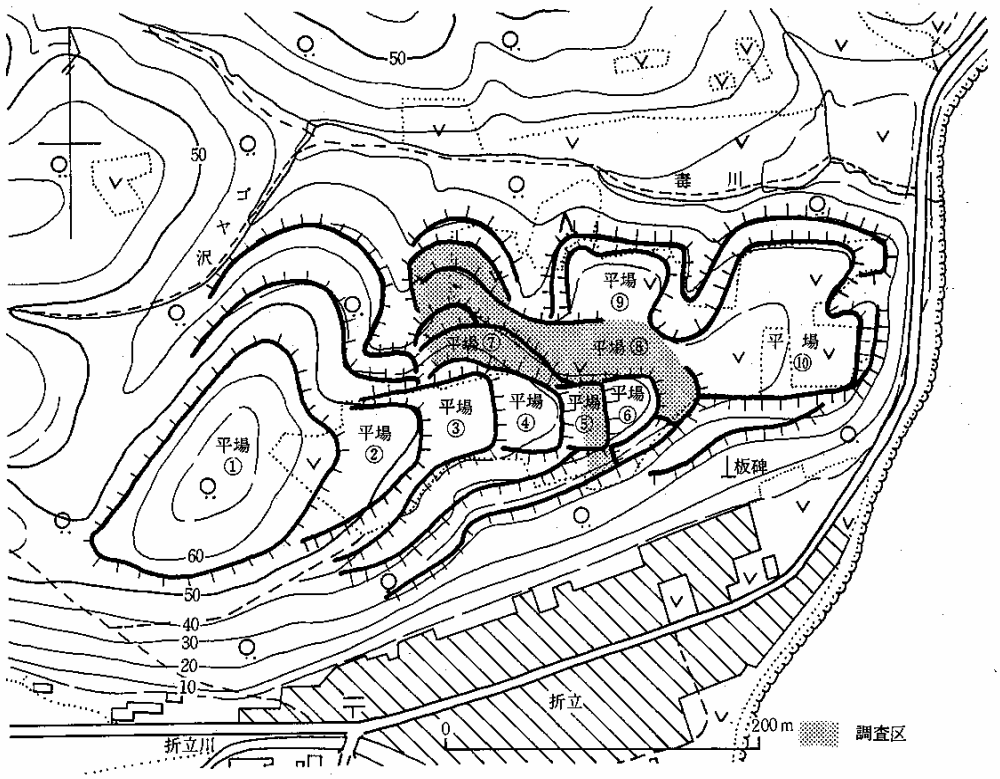
1	大平館跡（折立城）	10	論館跡	19	小森館跡	28	西戸館跡
2	塩前寺廃寺址	11	伽羅館跡	20	千人塚	29	沢の前館跡（水戸部城）
3	要害館跡（清水浜城）	12	新井田館跡	21	華要害館跡（小金沢館）	30	松崎館跡
4	大窪館跡（窪館）	13	上の山遺跡	22	大船遺跡	31	長者屋敷遺跡
5	孤壇	14	城場遺跡	23	旭館跡（斎日城・川城・徹ケ城）	32	波伝谷遺跡
6	荒砥館跡	15	築館跡	24	おたまや遺跡	33	天女塚・狗塚
7	文覚塚	16	袋館跡	25	大久保貝塚	34	滝浜城跡（若宮館）
8	平磯館跡	17	松倉館跡	26	蝦夷塚	35	若宮遺跡
9	袖浜遺跡	18	行人塚	27	黒崎館跡（千葉屋敷）	36	滝浜経塚

第１図　位置と周辺の遺跡

１．遺跡の位置と現状

大平館は本吉郡志津川町戸倉字折立に所在する。志津川町には、旭館（第１図　23）をはじめとし、26 ケ所の城館跡が確認されているが、記録を有するものは数少ない。大平館に関しては、『仙台領古城書上』に、規模34 間×24 間・館主千葉彦右衛門という記載が見られる。

館跡は、志津川湾に突出する標高 35～65mの丘陵上に立地し、南側を折立川に、北側を毒川に、西側をゴヤ沢によって区画された東西600×南北300mほどの規模(註1)である。館の地形を概観すると、南側及び東側は急峻な斜面を形成しており、北側は毒川に入り込む３ケ所の沢を囲むように舌状にのびる小丘陵が見られ、複雑な地形をしている。西側は、ゴヤ沢によって背後の丘陵から分離された状況を呈している。構造的には、丘陵頂部から東に向かい10 の平場と、２～４段の腰郭から構成される。更に 10 の平場は、頂部平場①、丘陵鞍部に続く平場②～⑥と毒川斜面に面する平場⑦～⑨及び志津川湾を俯瞰する平場⑩の４つに大別される。このほか腰郭から平場に至る通路が数ケ所に付設されている。また、館裾部の塩前寺跡と伝えられている境内に至徳年間ほかの板碑が三基見られる。



第２図　大平館全体図と調査区

2．調査の概要

今回調査した箇所は、平場⑦・⑧及び⑤の一部、北側及び南側腰郭の一部と平場⑥をめぐる腰郭の一部である。調査の結果、中世の館跡に伴う遺構・遺物のほかに、縄文時代の遺構・遺物及び弥生時代の遺物が検出された。

(1) 中世

a. 平場⑤ 整地層が検出され、その上面には柱穴群及び南北方向に抜ける通路が発見された。さらに、整地層下から柱穴群及び土壙が検出され、大きく２時期に分けることができる。建物の構造及び規模は、現在検討中である。

b. 平場⑦ 土倉、竪穴遺構及び通路が検出された。土倉は、長軸7.3m×短軸7mほどの不整な楕円形をしており、南西部には階段を設けている。土倉の西側には竪穴遺構が３基検出されたが、その性格を明確にすることはできなかった。ただし、最も大きいものは、長軸 8.3m×短軸7.3mほどの不整な楕円形をしており、土倉のような性格が考えられる。

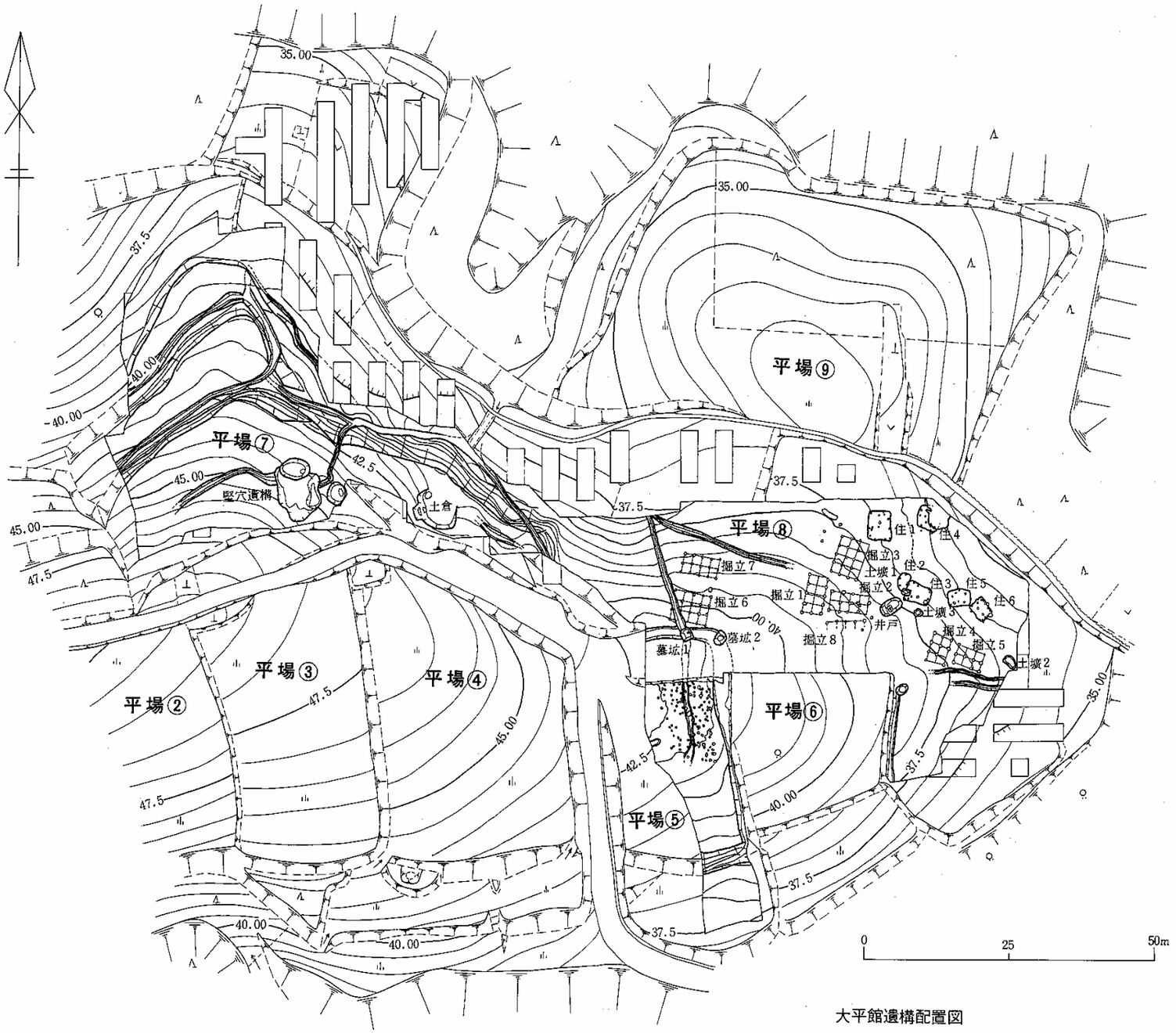
c. 平場⑧ 掘立柱建物跡、井戸及び通路が検出された。掘立柱建物跡の構造は、いずれも総柱であり、その規模は３×２間が２棟、４×２間が３棟、４×３間が２棟である。ただし、掘立８号に関しては、すでに削平も受けており、明確にすることはできなかった。また、柱穴掘り方の形状は、円形をしたものと隅丸長方形をしたものとがある。柱穴から、陶器片、鉄製品、石製有孔円板等が検出された。平場⑤から南北方向に抜ける通路は掘立６号より新しい時期に設けられたものである。また、掘立２号・８号に隣接する平場中央には、深さ2.7m程の素掘りの井戸が発見された。なお、墓壙１号・２号は近世のものと考えられる。

d. 腰郭 北側腰郭では、腰郭に沿う通路が検出された。平場⑥をめぐる腰郭では南北に抜ける通路、平場⑩と連絡すると考えられる通路及び土壙が検出された。南側腰郭では、腰郭に沿う通路が検出された。いずれも他の施設は認められなかった。

番号	桁行	梁間
1	4間	2間
2	4間	2間
3	4間	3間
4	3間	2間
5	3間	2間
6	4間	3間
7	4間	2間
8	4間	?

表１ 掘立柱建物規模

文献資料としては、『仙台領古城書上』のほかに、『折立村風土記御用書出』に大衡館、『仙台領古城書立え覚』に折立城、『執内名蹟志』に折立古館として掲載されている。また、史実に関する伝承としては、『伊達秘鑑』における天正19年の葛西大崎一揆に際する記録中に、折立城主折立刑部が一揆の残党とともに籠城し、伊達政宗の命を受けた富塚近江仲綱に平定された〔註2〕とある。

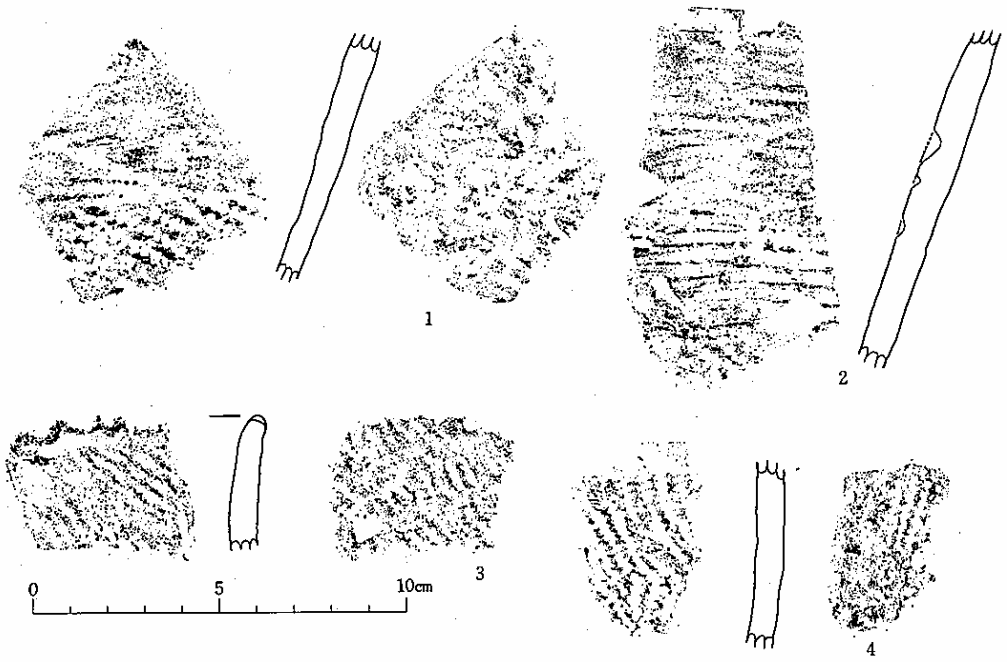

35.00
37.5
40.00
45.00
47.5
42.5
平場⑦
平場⑨
平場⑧
平場③
平場④
平場②
平場⑥
平場⑤
竪穴遺構
土倉
墓坑1
墓坑2
井戸
掘立1
掘立2
掘立3
掘立4
掘立5
掘立6
掘立7
掘立8
土壙1
土壙2
土壙3
住1
住2
住3
住4
住5
住6
0
25
50m

大平館遺構配置図

(2) 縄文時代

平場⑧の東側に面する斜面に、縄文時代早期後葉から末葉にわたると考えられる竪穴住居跡が６軒及び土壙が３基検出された。住居跡はいずれもほぼ長方形のプランを呈し、地山を掘り込んでつくられている。床面は、自然地形の傾斜をそのまま利用し、水平ではない。住居跡の出土遺物は、土器・石器である。土器の外面には、単節あるいは０段多条等の縄文を施し、口縁部文様帯に横走する貝殻条痕文を施し、更に押圧縄文を施すものがある。土器内面は、貝殻によって調整され、更に縄文を施したものがある。器形は尖底及び丸底を呈し、器体に混和材として繊維を混入している。このような特徴を持つ土器は、宮城県石巻市梨木畑貝塚などに類例が見られ、縄文時代早期後葉の「梨木畑式」とされている。住居跡ごとの時期に関しては、目下検討中であるが、６号住居は壁柱穴が見られる点で、時期的に若干下降するものと考えられる。石器は、石鏃・磨石等が発見された。

調査の結果、住居跡群は、東側斜面の標高37～38mの間に集中して発見された。そのあり方から平場⑨及び平場⑩にものびてゆく可能性がある。また、縄文時代前期前葉の土器片が特に平場⑧の斜面から多数出土したが、遺構は検出できず、流入したものと考えられ、分布調査の結果、平場④に当該時期の土器片が多数認められることから、集落が平場④にあたる丘陵鞍部に構成されていたものと思われる。



第４図　出土遺物

〔註１〕『仙台領古城書上』の記録は、平場⑩のみを指すものと考えられる。

〔註２〕「八月九日京都へ御使トシテ。桜田宮内・支倉平三郎差登サレ。葛西大崎ノ一揆悉ク退治平均シテ。始終一々書面ヲ以テ上聞ニ達サレケル。斯ルトコロニ葛西ノ内本吉郡折立ノ城主折立刑部ト云者。又一揆ヲ超シテ。隠レ居タル浪人百姓ヲ集メ。籠城支度仕度仕ル由。近郡ヨリ訴ヘケレハ。富塚近江仲綱ニ討手ヲ命シ。則百余騎ヲ授ケラル。仲綱即日士卒ヲ引テ発向シ。急ニ折立へ取カケタリ。城主折立刑部未タ計策不レ調。要害浅間ナル所へ。不意ニ討手来リケレハ。一当ノ防戦ニモ不レ及。途ヲ失フテ逃迷フヲ追カケ追詰。刑部並ニ余類ノ者共三十八人生捕ニシテ。城ヲ焼立。黒川ノ御陣へ帰リケリ。」(『伊達秘鑑』巻之三十)

４．まとめ

(1) 大平館は、志津川湾に臨む標高35～65mの丘陵上に立地し、規模は東西600×南北300mほどである。

(2) 館主の伝承が、『仙台領古城書上』などに残っており、葛西氏家臣にあたる千葉氏の支配した館とされている。

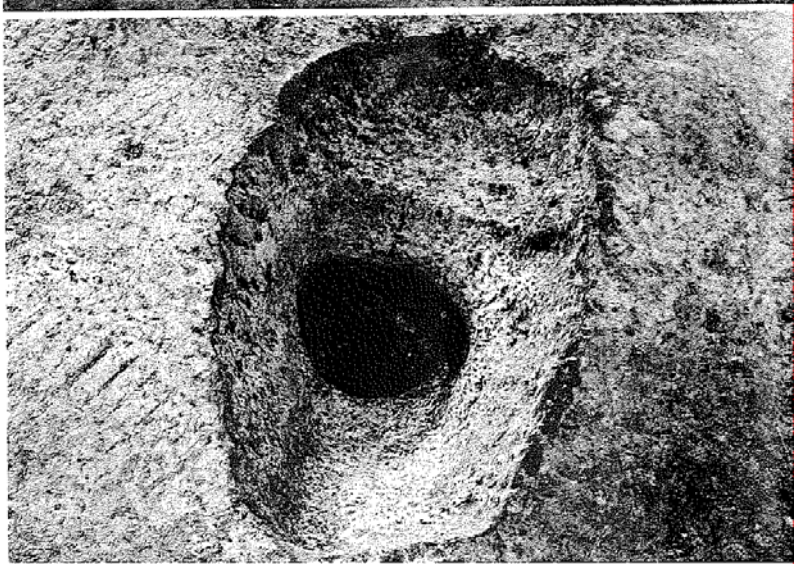
(3) 今回の調査で発見されたのは、掘立柱建物跡・井戸・土倉などであり、平場ごとに異なる性格を呈していることが確認された。

(4) さらに縄文時代早期の住居跡群が、毒川に面する東側斜面に検出された。本来的に、集落を構成するには適地とは言えない斜面に立地することは、この集落における性格の一端を示しているものと考えられ、集落のあり方を考える上で重要な遺跡と言える。

(5) 縄文時代の住居跡・土拡と中世の掘立柱建物跡の柱穴については、志津川町教育委員会の協力で川砂を入れ、一応の保存処置を構じた。

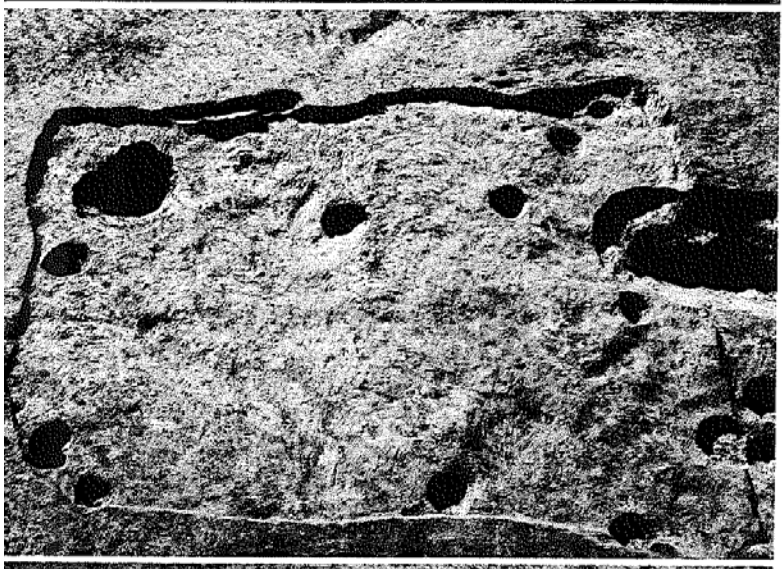
掘立３号

井　戸

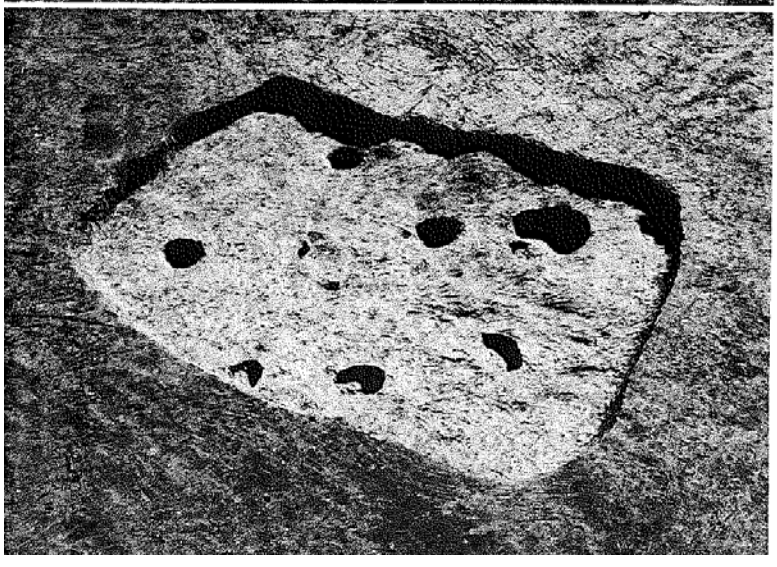


図版 1

第１号住居



第３号住居



第５号住居

図 版 2

(4)佐沼(さぬま)城跡

調　査　要　項

遺跡所在地：登米郡迫町佐沼字内町
宮城県遺跡地名表登載番号：51027
調査期間：昭和56年8月2日～4日
調査面積：約1,300㎡
発掘面積：約90㎡
調査主体：迫町教育委員会
調査担当：宮城県教育庁文化財保護課
調　査　員：狩野　正昭・阿部　　恵

１．遺跡の立地

佐沼城（鹿ケ城）跡は登米郡迫町佐沼字内町に所在し、迫町役場の東方約0.5㎞に位置する。城跡は迫川低地のほぼ中央、築館丘陵の延長にある分離丘陵上に位置する。標高およそ 16m、比高は約９mである。城跡の北東を荒川が曲流し、迫川と合流し南下する。西側は役場等がある新市街地となっているが、かつては沼沢地で、水城の性格を帯びた天然の要害である。中世末には葛西・大崎一揆軍の最後の拠点であり、藩政時代には21 の要害の１つで、実に由緒のある城跡である。

町内には旧石器時代を除く各時代の遺跡が存在するが、中でも、糖塚、大多古、倉崎等の淡水産の貝塚や佐沼城、西館跡等の城館が多いのが特色である。更に県内でも数少ない中世窯の品ノ浦窯跡などは著名である。

２．調査の概要

調査は迫町近隣公園整備事業の一環である堀の改修工事に伴う事前の発掘調査として実施された。昭和53 年、55 年に引続き３次目の調査である。今回は土木工事にかかる本丸跡北側の堀約 130mを対象にし、長さ約 10m、幅約３mの３本のトレンチをほぼ等間隔に設定した。堀は雑草や笹がはびこり、堀中央部にはヘドロが厚く堆積していた。

〈堀跡〉　堀の外側を走る道路により、外側上端の検出はできなかったので、上幅の規模については不明であるが、前回の調査及び平面図等から勘案すると10mを越すものと想定される。下幅は約４mであり、路肩よりの深さは約３mで本丸跡とされる頂部平場とは実に10m前後の段差がある。壁の立ちあがりは比較的緩やかである。石垣の痕跡は認められず、本丸よりの斜面には杭がみられる。堆積土は自然流入である。堀中央部には浚渫された部分が認められる。

〈出土遺物〉　出土遺物には中世陶器の甕（口縁部と体部の破片各１点）と磁器１点がある。甕１は口縁部から頚部にかけて残存している。無釉で推定口径約50㎝ の大甕である。全体的に口縁部は幅広い重厚なつくりである。口縁外側に縁帯が巡り、口縁下端には断面三角形の鋭い凸帯がある。器面調整としては内外面ともナデ調整されている。色調は暗褐色、胎土は細砂を含むが、焼成は堅緻である。口縁部外側に縁帯がめぐる器形上の特徴からみると、大和町八谷館空堀、御所館Ｃ地出土に近似しており、時期はともに15 世紀とされている（藤沼：1976)。中世の当地は葛西・大崎両氏の係争地で、該期とすれば大崎の臣、佐沼直信が居城した項とも想定される。２は体部破片である。色調は１より赤い。

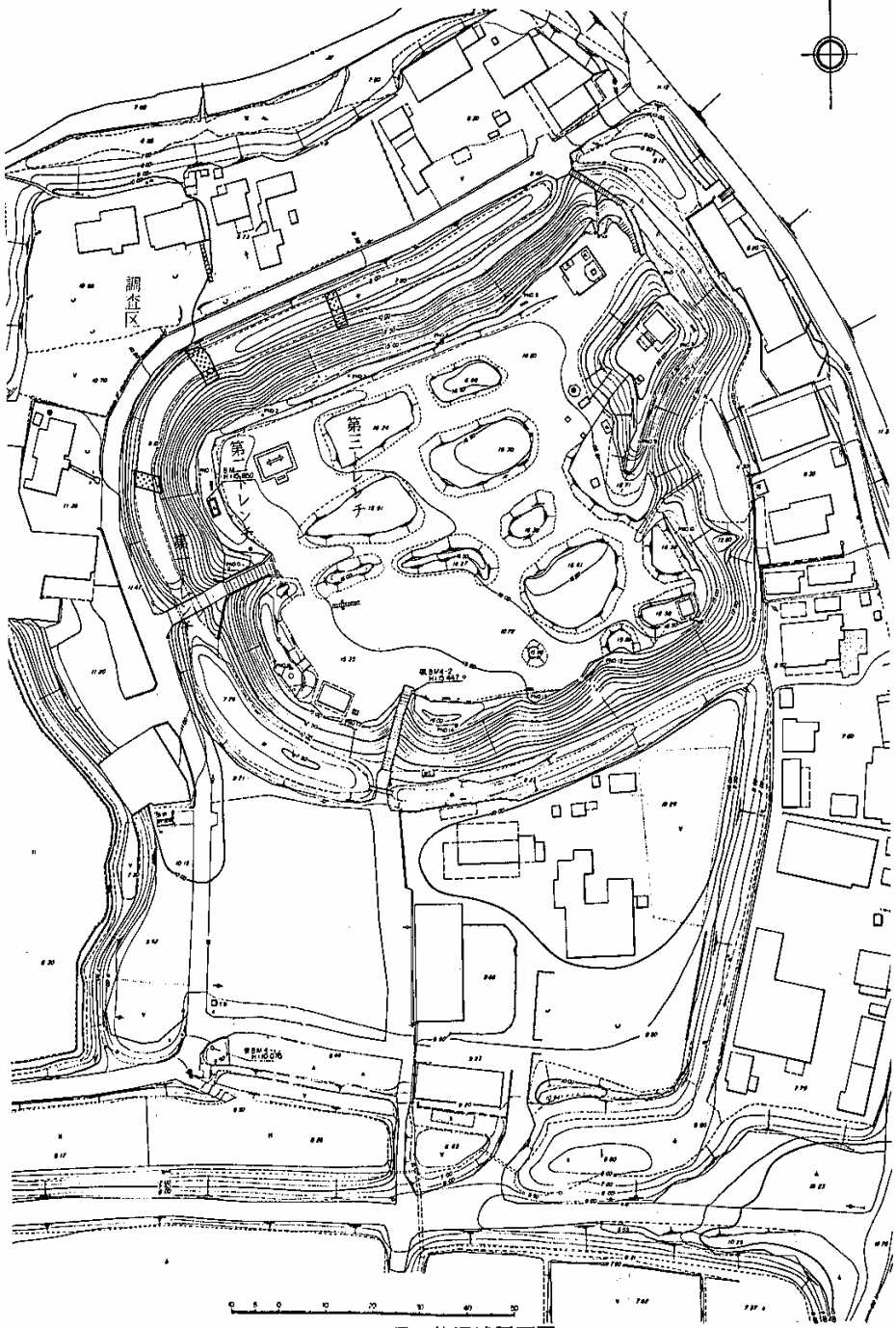
磁器（染付）　皿底部破片である。染付は花鳥文と想定されるが、小破片のため不明である。

引用参考文献

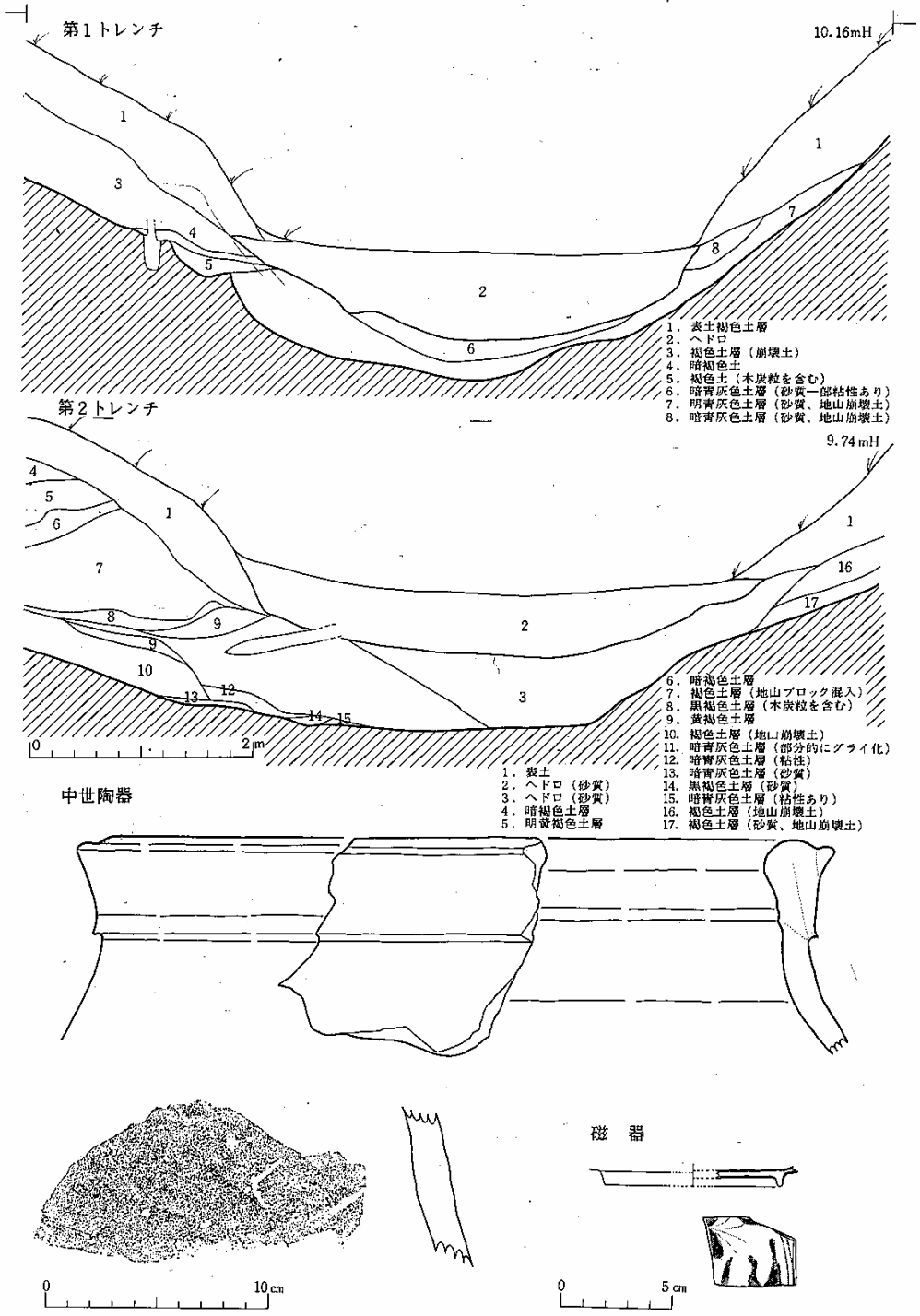
小井川和夫：1979　「佐沼城跡」宮城県文化財調査略報（昭和53 年度分）

藤沼　邦彦：1976　「宮城県出土の中世陶器について」東北歴史資料館研究紀要第３巻

鹿ケ城跡平面図



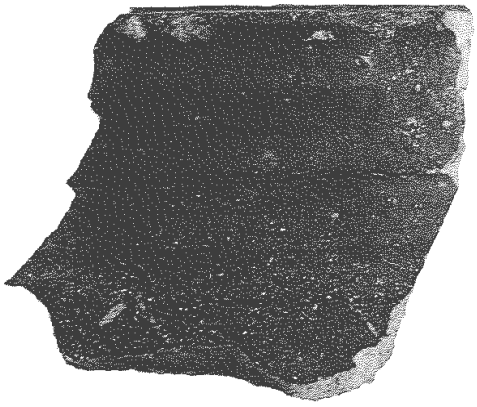
第1図　佐沼城平面図

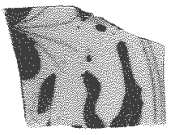


第2図　堀断面図と出土遺物

第２トレンチ

第３トレンチ





左　中世陶器
右　磁器

(5)藤浜(ふじはま)貝塚

調　査　要　項

遺跡所在地：本吉郡唐桑町字宿浦

遺跡記号：ＧＬ（宮城県遺跡地名表登載番号：63001）

調査期間：昭和56年1月6日～1月9日

発掘面積：約30㎡

調査主体：唐桑町教育委員会

調査担当：宮城県教育庁文化財保護課

調　査　員：加藤　道男・阿部　　恵

１．遺跡の立地

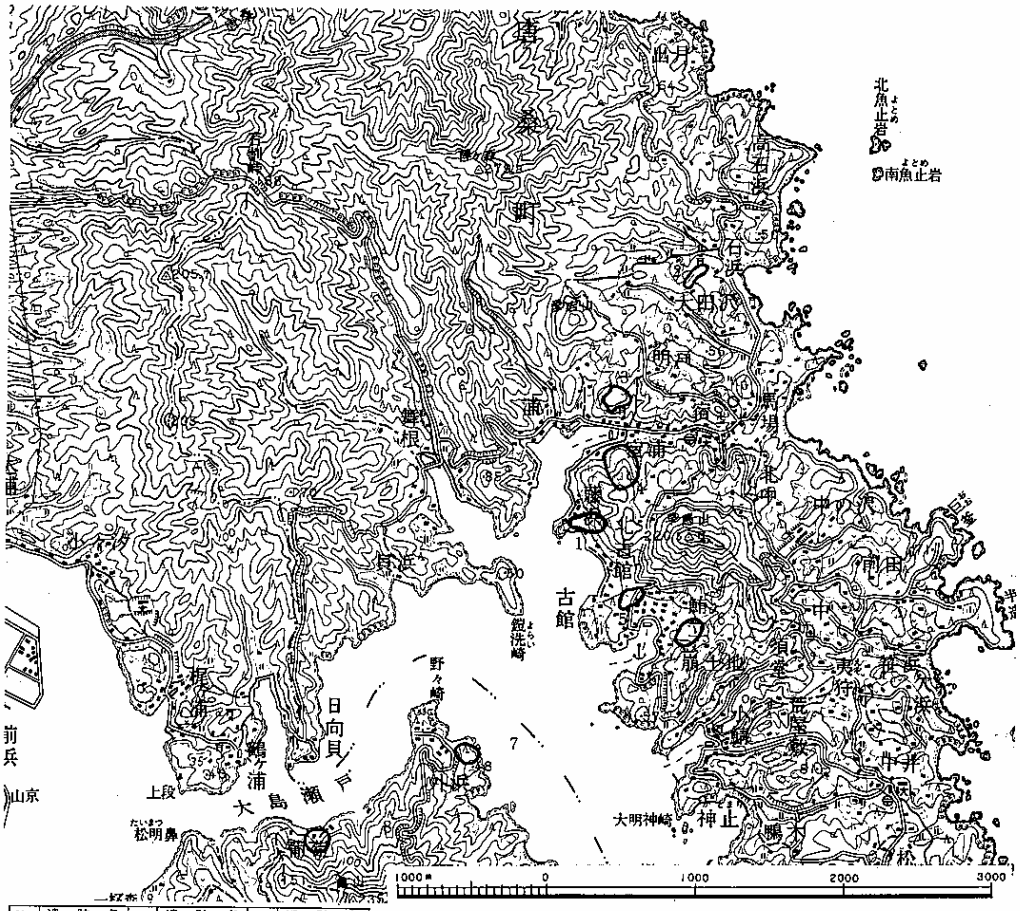
藤浜貝塚の所在する唐桑町は宮城県の最北端にあたり、町の南半は半島で太平洋に突き出ている。半島では早馬山が標高 220mと最も高く、その裾がのびて海と接する付近の段丘上に遺跡が立地している。遺跡付近は西に張り出した小さな半島状を呈し、その基部の北・南斜面に貝層が形成されている。半島には他に古舘貝塚などの遺跡がある。

２．調査の概要

当貝塚からは縄文時代前期末、中期前半、晩期後葉、弥生時代の遺物が発見されており、非常に保存状態の良好な貝塚として知られている。過去には鼎が浦高等学校によって発掘調査が行われている。[註] 今回の調査は家屋増築に伴って遺跡のほぼ中央部を対象として実施し、その結果地山面でフラスコ状土壙３基を検出し、縄文時代中期前半の遺物が出土した。

○フラスコ状土壙

第１号土壙―上端径 100㎝、下端径 150㎝、深さ 85㎝ ほどである。土壙内堆積土は下部２枚

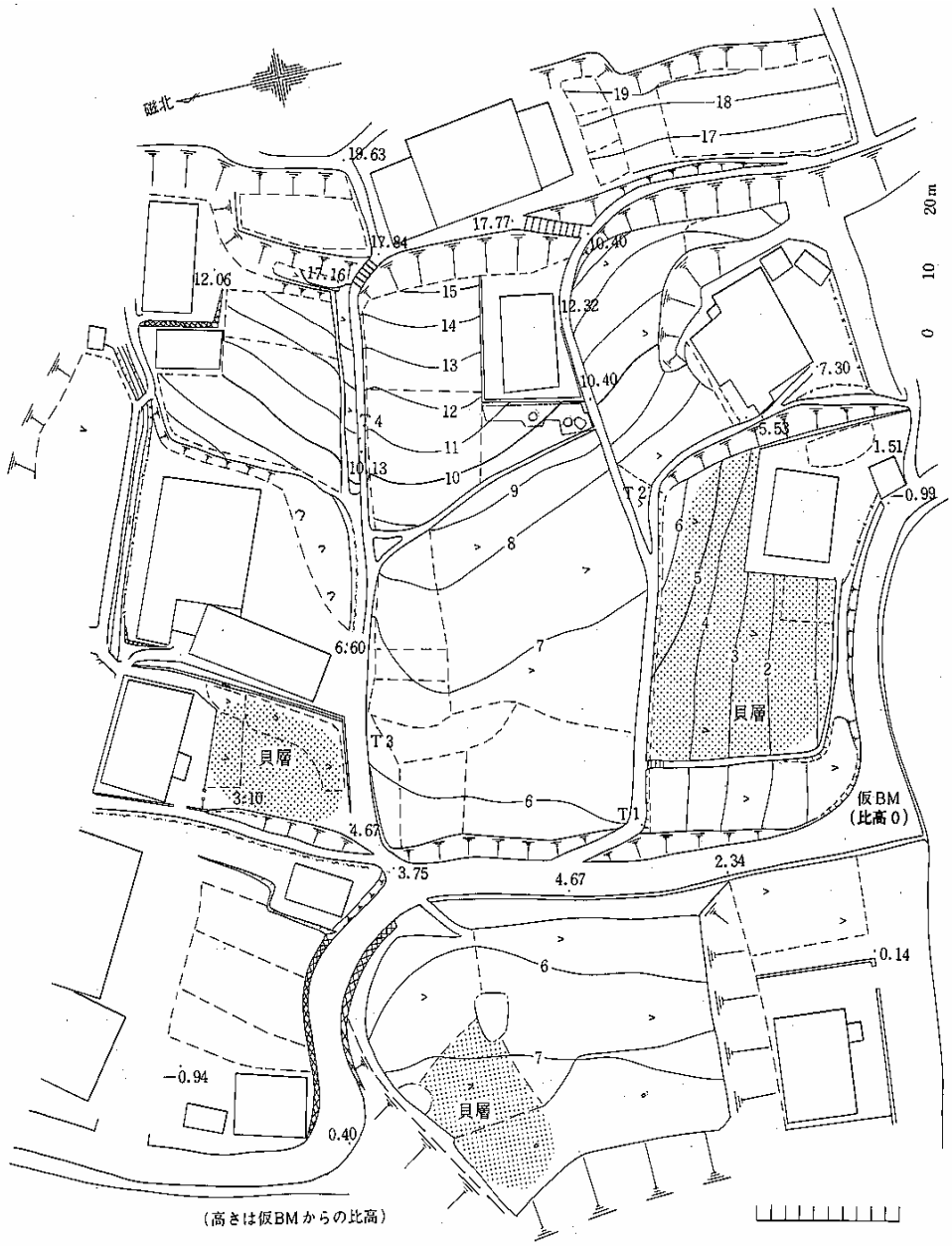


No.	遺跡名	No.	遺跡名	No.	遺跡名
1	藤ヶ浜貝塚	4	南舘跡	7	外浜遺跡
2	石浜遺跡	5	古舘貝塚	8	葡萄遺跡
3	鰹釣遺跡	6	長浜遺跡（鮪立遺跡）		

第１図　遺跡の位置

（第５・４層）が円錐状を成していて自然流入、中位（第３・２層）は壁の崩落でその上面に生じたくぼみに流入土（第１層）がみられる。なお、検出した部分で壁面に崩落の跡が明瞭には観察されず、第３、２層は土壙の壁が本来さらに高いものであって、その部分がくずれたのであろう。第５、４層から遺物が出土している。

第２、３号土壙一重複しており、第３号が第２号を切っている。上端径、下端径は両者ほぼ同じてそれぞれ120㎝、180㎝ほどであり、深さは第２号が約160㎝、第３号が約200㎝を計



第２図　遺跡周辺の地形

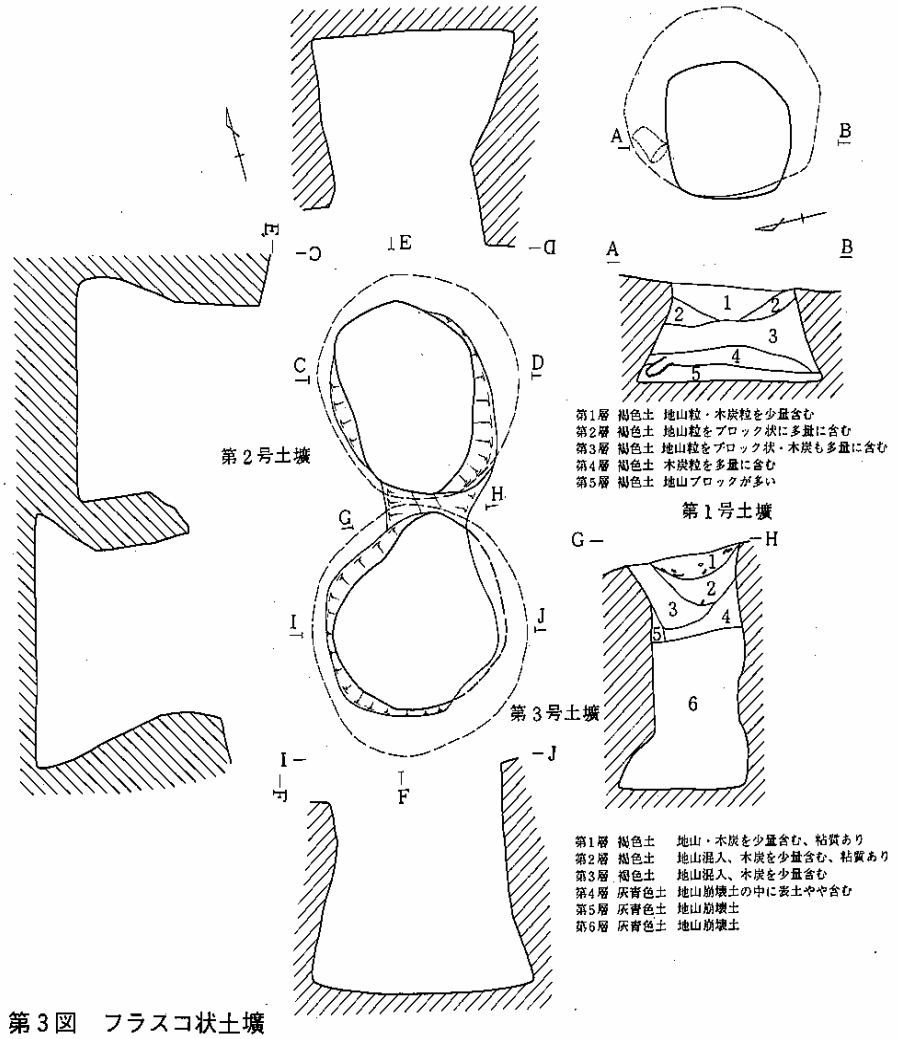
る。堆積状況は近似しており、底面上に壁の崩落土（第６～４層）が厚く堆積し、その上面では第２号の南半から第３号にかけて浅い溝状を呈する。さらに、この溝が埋まる（第３～１層)。

遺物は第２号からは上層からごく少量出土したにすぎない。第３号は第１層（第２層から少量)、および底面から多量に出土した。前者は溝状落ち込みに沿って、後者は破片が散乱して発見されており、いずれも自然に落ち込んだものと考えられる。

○第３号土壙出土土器

床面出土土器（第　図１～４）

１－体上部から口縁部にかけて反り気味に立ち上がる。口縁部は肥厚して内面に稜が走る。また特徴的な突起がつく。突起部には側面に隆・沈線による楕円と中ば渦状の文様が、上面に細長い「Ｓ」字状の沈線文がつく。口縁部上端には角押し文がみられる。口縁・体部には縄文(ＬＲ) を地文として上位に隆・沈線による長方形の区画文が、下位には平行沈線文がみられる。



第３図　フラスコ状土壙

２－口縁部がふくらんで内弯し、体上部が外傾するキャリパー形に近い器形を呈する。突起部を欠く。突起間の口縁部上端に渦文がつく。口縁部には上下を画した隆線間に、縄文(ＲＬ)を地文として隆線が大きく波状に走り、途中から渦、弧状文が展開する。隆線に沿って撚糸圧痕(原体ＬＲ)が施され、一部でするどく突き出す。体部には縄文（ＲＬ）がみられる。

３－器形、文様構成は１と同様である。異る点は口縁部の地文が撚糸文（Ｒ）であること、弧状文の代りに鋸歯状文が、撚糸圧痕の代りに沈線が用いられていることである。

４－口縁部がわずかに内弯するほか変化にとぼしく筒状の器形を呈する。口縁部には縄文(ＬＲ）を地文とし、隆線によって「ᔕ」状文と横走する２条の平行線が施されている。体部は縄文（ＬＲ）である。

１～４はいずれも文様が４単位、１～３の突起は３個である。

堆積土第１層出土遺物（第　図５～７）

５・６は深鉢形土器、７は浅鉢形土器である。

５－器形の特徴は第　図２・３とほぼ一致する。文様は口縁部と体部にみられ、縄文(ＲＬＲ)を地文としている。口縁部には隆線によって渦文が描かれ、その一部はするどく突き出し、また縦位にのびる。体部には隆線による平行線がみられ、一部から渦文が突き出し、また縦位に区切る。なお、隆線沿いに施された器面調整によって沈線状なる部分がある。突起は４個、文様は２単位である。

６－口縁部は内弯気味に直立し、体部は直線的に外傾する。口縁部に縄文(ＬＲ)を地文として文様が施されている。二本の隆線が縦位に走って文様単位を区切り、また横走して先端が渦状となり、一部はするどく突き出す。体部には縄文（　）がみられる。

以上図示したものについて概略を記した。このほかに写真図版に示したような土器が出土している。これらの年代は南方町長者原貝塚（阿部、遊佐：1978)、同町青島貝塚（加藤、後藤：1975）等に類例があり、縄文時代中期大木8a 式に比定される。また大木8a 式土器については二、三段階に変遷する可能性が指摘されている（丹羽：1981)。

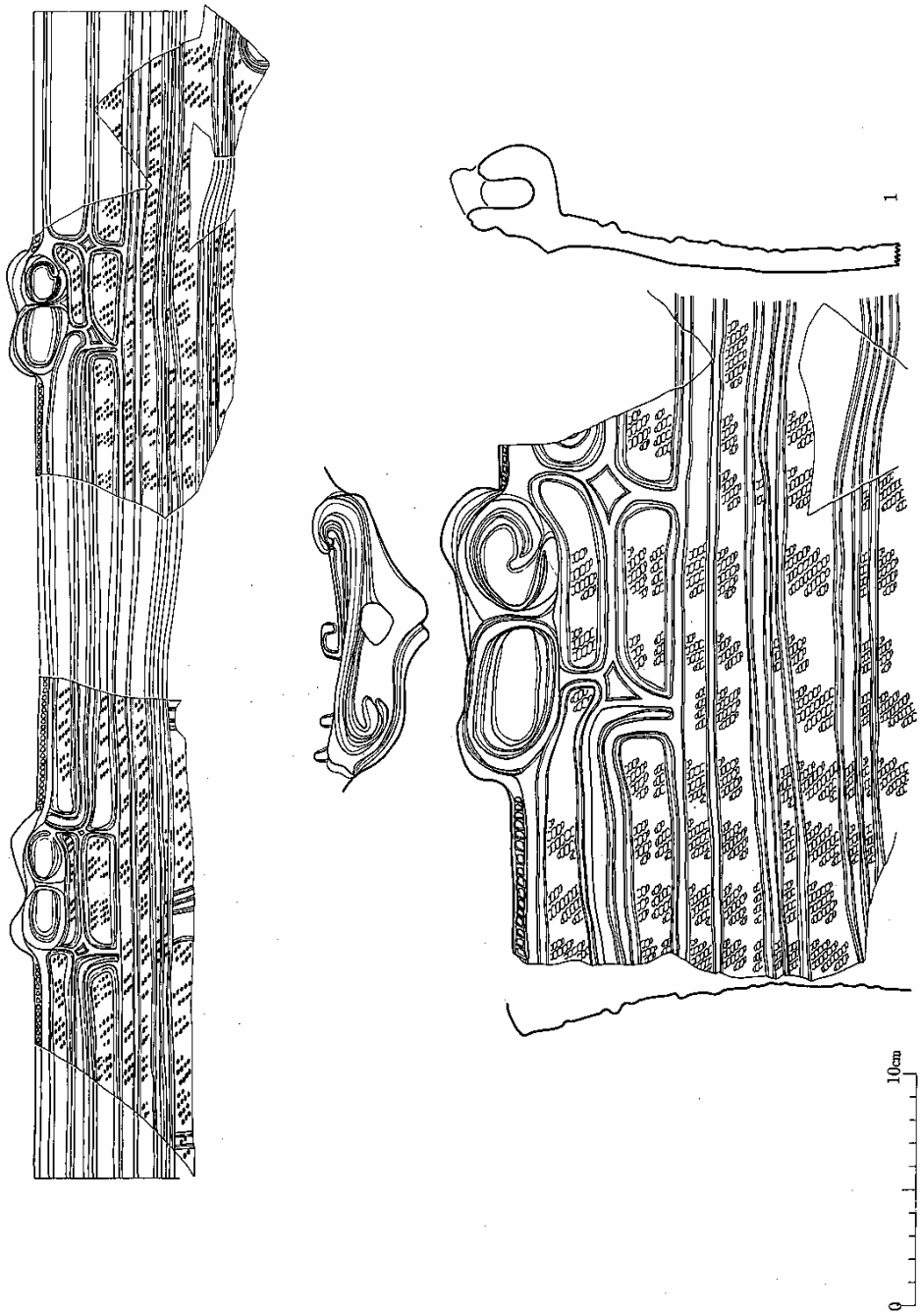
本遺跡でも第３号土壙の底面と堆積土第１層出土土器の間には層位的に時間差があり、また土器の特徴、特に文様構成に違いがみられて変遷することが考えられる。今後各段階の資料が公開されることによって、位置付けが明確になるものと思われる。

（註）　鼎が浦高校社会班（1968）:「本吉郡唐桑町藤浜遺跡・古舘貝塚発掘調査報告」

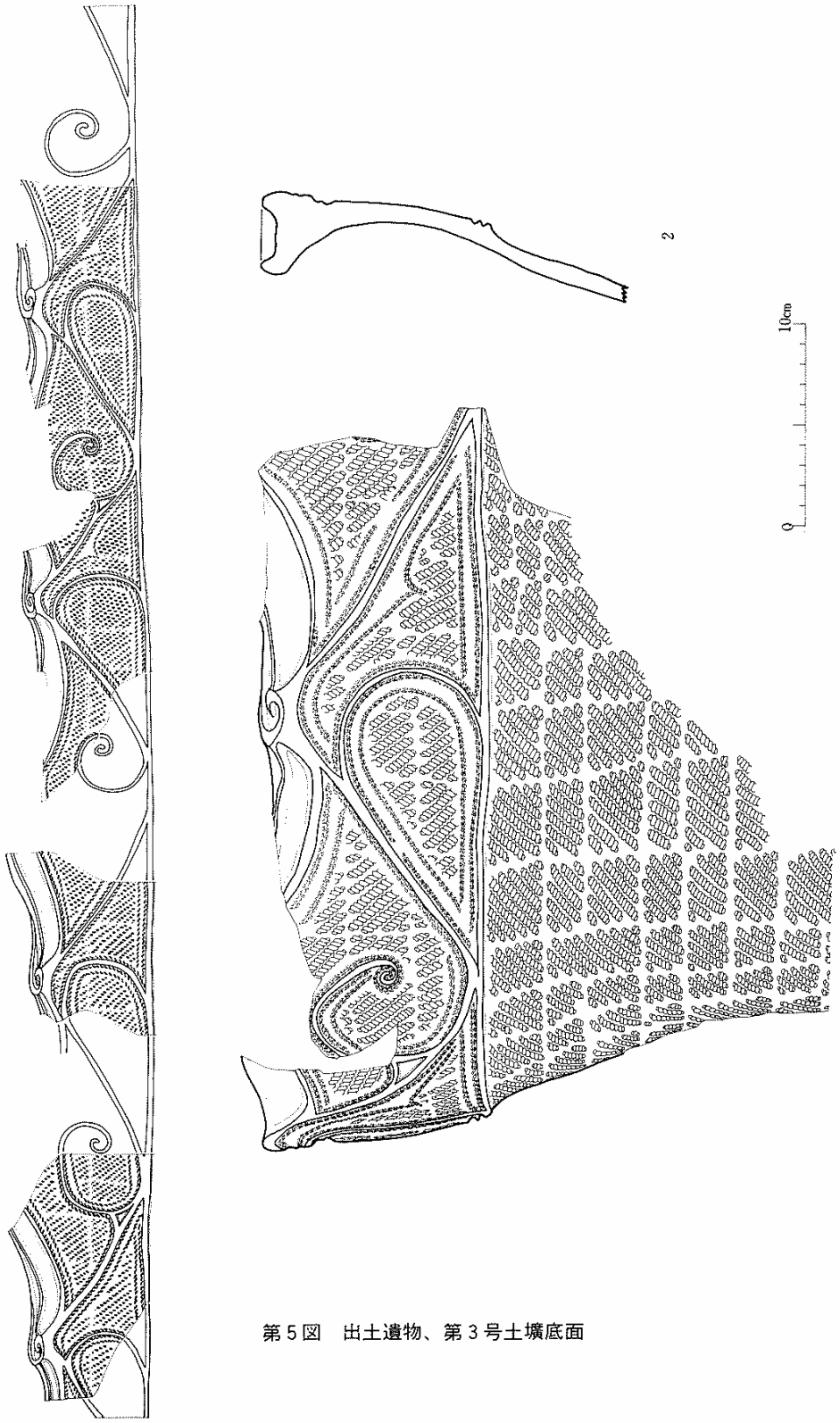
引用文献　阿部・遊佐（1978）:「長者原貝塚」南方町文化財調査報告書第１集

加藤・後藤（1975）:「宮城県登米郡南方町青島貝塚発掘調査報告」南方町史資料編

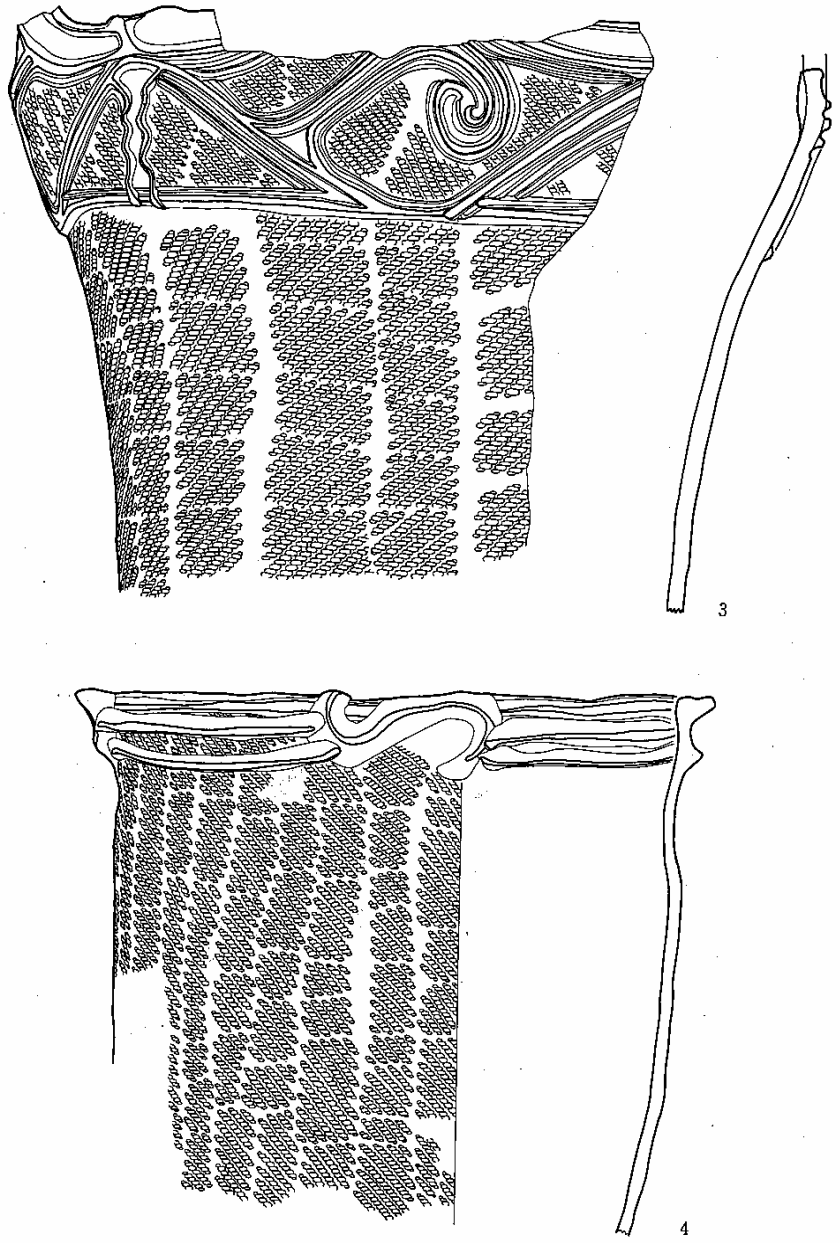
丹羽茂　　（1981）:「中期の土器―大木式土器」縄文文化の研究４　縄文土器Ⅱ



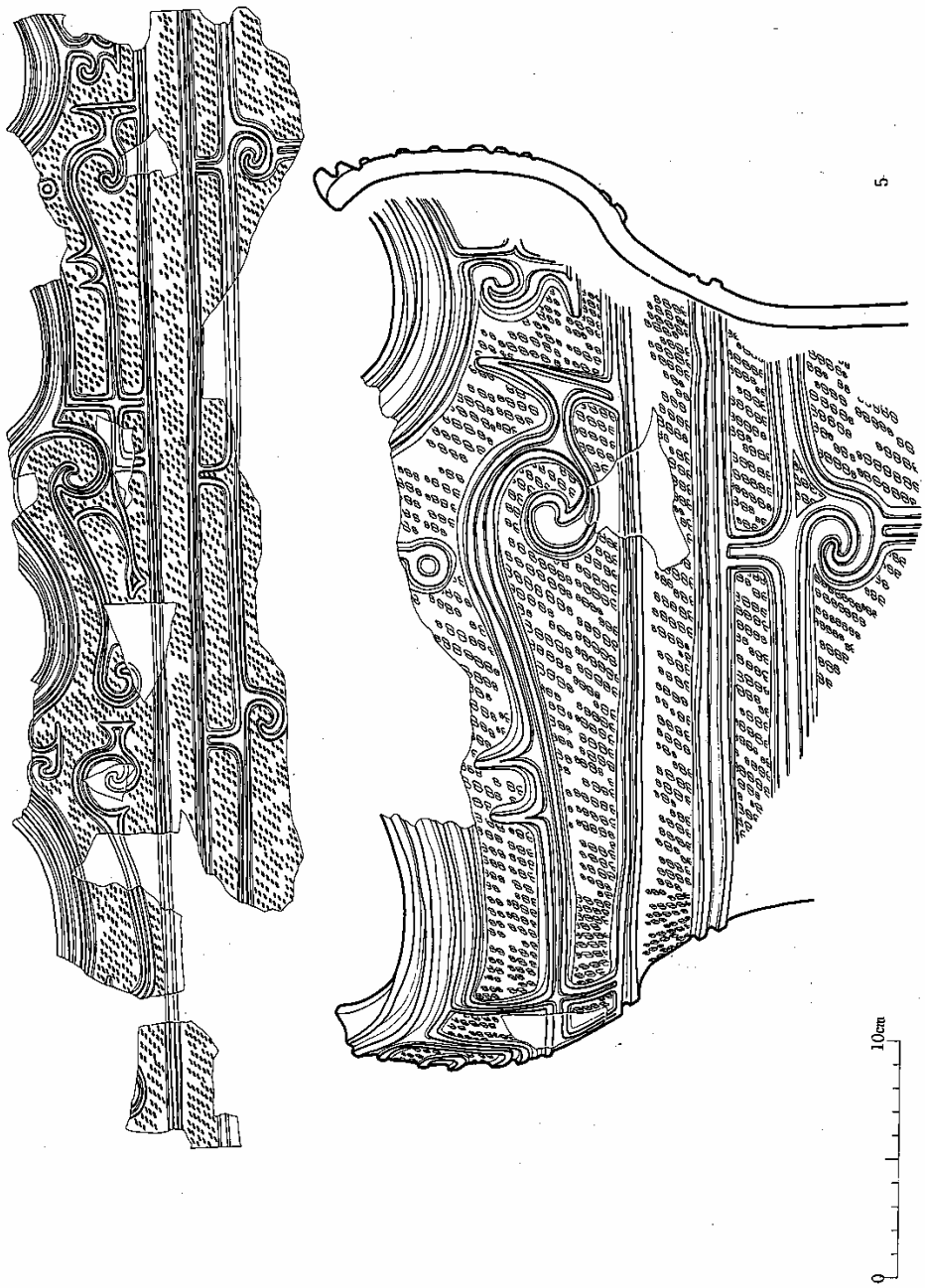
第4図　出土遺物、第3号土壙底面



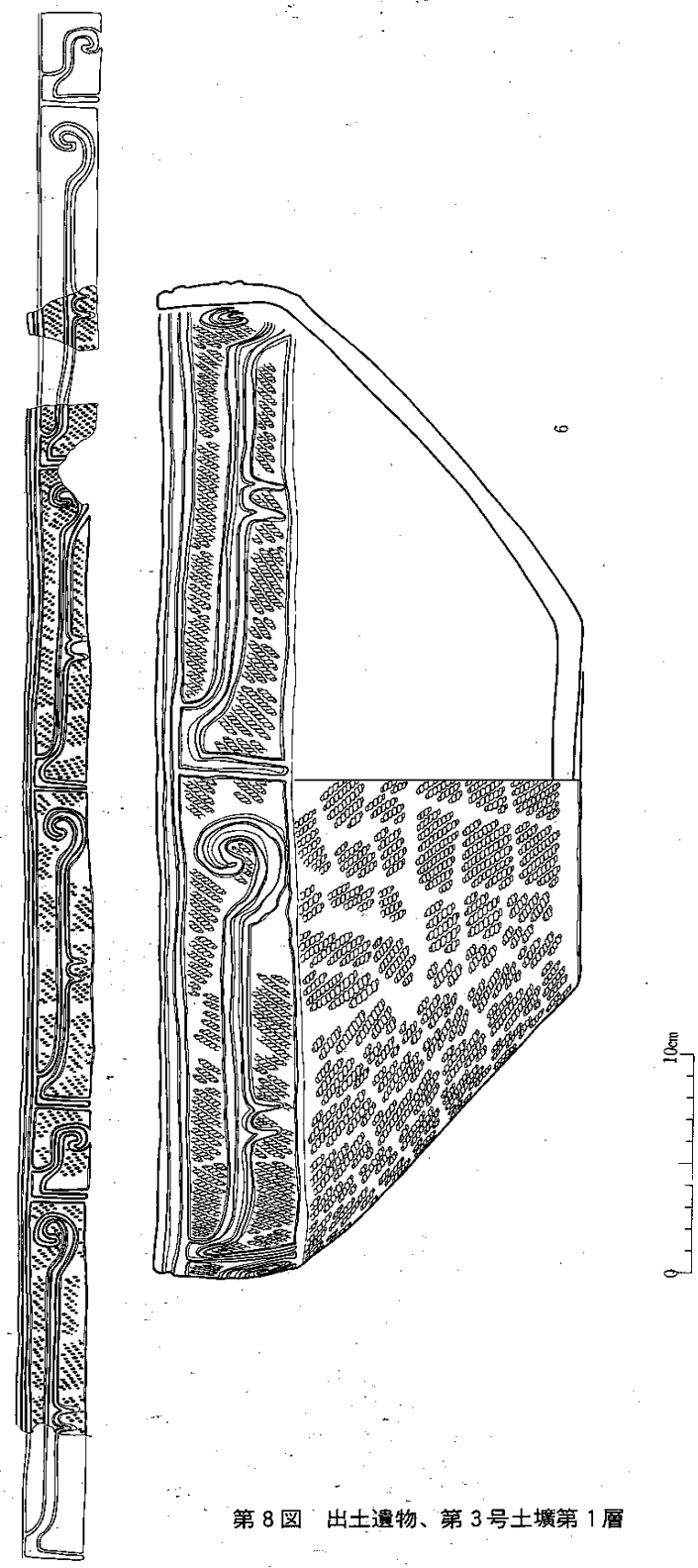
第 5 図　出土遺物、第 3 号土壙底面



第６図　出土遺物、第３号土壙第１層

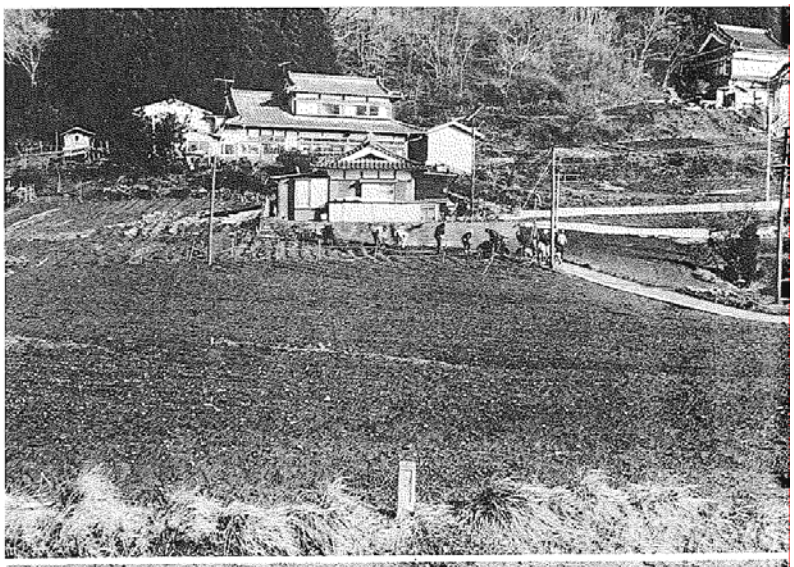


第７図　出土遺物、第３号土壙第１層

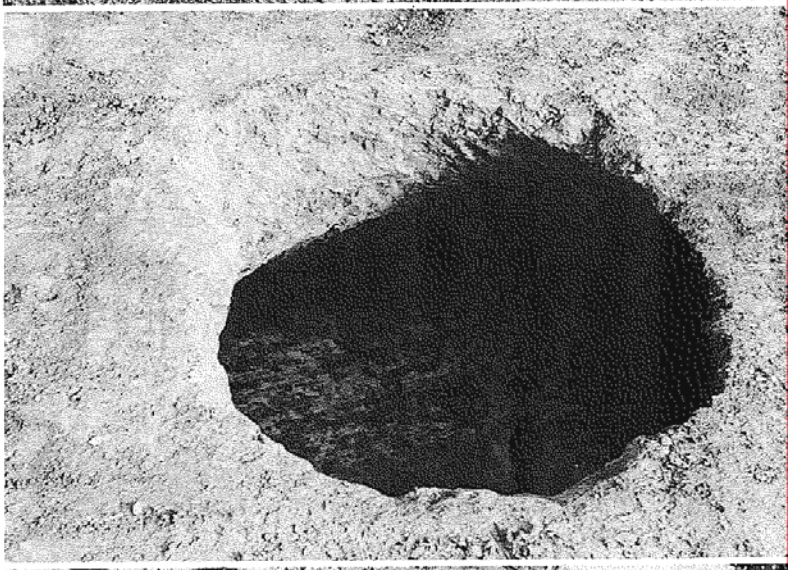


第 8 図　出土遺物、第 3 号土壙第 1 層

遺跡近影



第１号土壙



第２号土壙

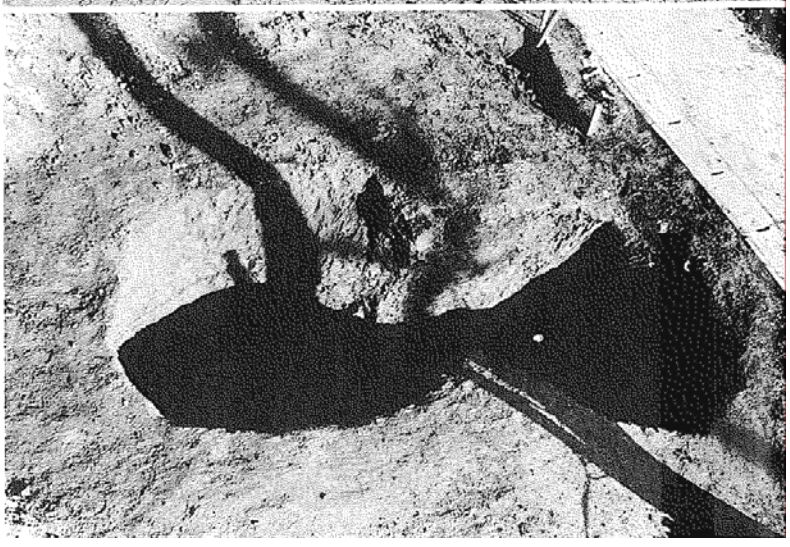
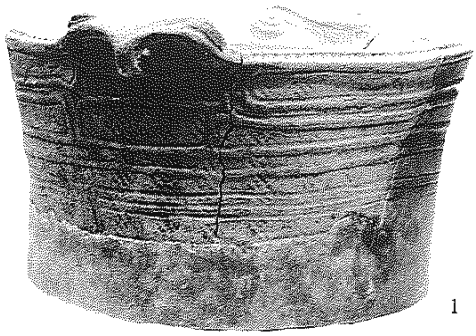
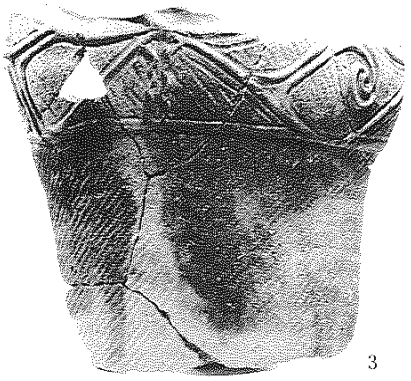
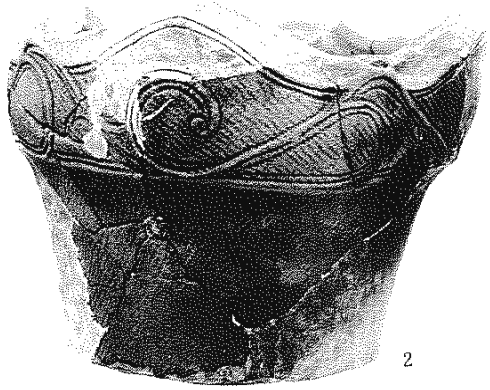
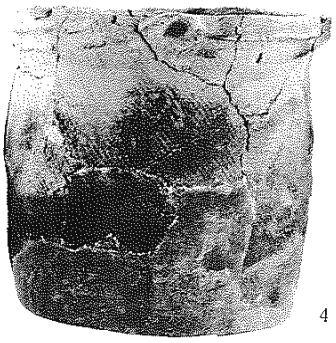


図　版　1

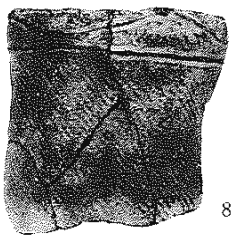

1


3


2


4

5


8

7

6

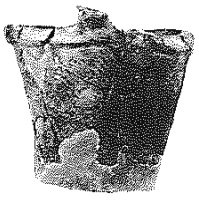
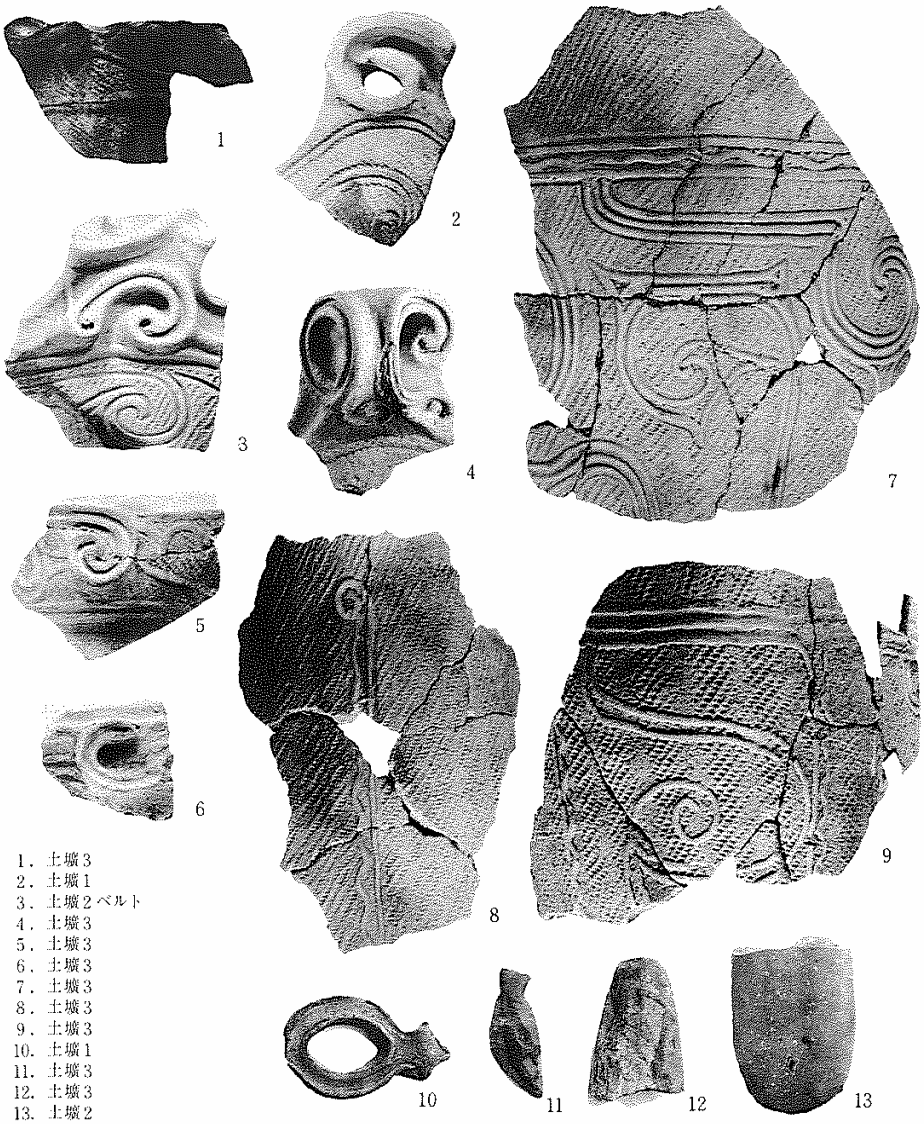

9

図　版　2



1．土壙３
2．土壙１
3．土壙２ベルト
4．土壙３
5．土壙３
6．土壙３
7．土壙３
8．土壙３
9．土壙３
10．土壙１
11．土壙３
12．土壙３
13．土壙２

図　版　３

昭和56年度発掘届等一覧

（昭和57年２月３日現在）

・宮城県文化財調査報告書第78集（1981）に収録洩れのあった昭和56年２月22日以降のものを含む

（１）文化財保護法第57条の１による届出（調査のための発掘に関する届出）

昭和56年度

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
131	座散乱木遺跡	岩手山町	57条の1	鎌田俊昭	石器文化談話会	学術調査	包含地
210	里浜貝塚	鳴瀬町	57条の1	東北歴史資料館長	東北歴史資料館	学術調査	貝塚
290	伊達家廟	仙台市	57条の1	伊東信雄	伊東信雄	学術調査	廟

（２）文化財保護法第57条の２・３による届出（土木工事等のための発掘に関する届出）

昭和55年度

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
214	岩切畑中遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		下水道工事	包含地
215	涌谷館跡	涌谷町	57条の3	宮城県知事		急傾斜地危険防止対策	館跡
216	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	小野老産業㈱		住宅建設	集落跡
217	愛宕山横穴群	仙台市	57条の2	林吉次郎		レストラン建設	横穴古墳
218	鶴巻Ⅰ遺跡	仙台市	57条の2	村岡福蔵		社務所建設	包含地
219	高崎遺跡	多賀城市	57条の3	東北電気通信局長		電話線(地下ケーブル)建設	包含地
220	仙台城跡	仙台市	57条の3	仙台市長		城壁（石垣）調査	館跡
221	郡山遺跡	仙台市	57条の2	渡辺富雄		住宅増築	官衛跡
222	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	五十嵐多吉		住宅新築	集落跡
223	沖野城跡	仙台市	57条の2	相原幸雄		住宅増築	館跡
224	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	佐藤幸一		住宅新築	集落跡
225	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	高野俊一		住宅増築	集落跡
226	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	小野老産業㈱		住宅建築	集落跡
227	新組遺跡	仙台市	57条の2	太田力夫		住宅増築	包含地
228	高田遺跡	仙台市	57条の2	庄子栄八		住宅建築	包含地
229	今泉城跡	仙台市	57条の2	佐藤清夫		〃	館跡
230	田母神屋敷跡	仙台市	57条の2	阿部久		〃	包含地
231	釜西古墳	石巻市	57条の3	斎藤敬一		〃	古墳
232	郡山遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		水路改修	官衛跡
233	郡山遺跡	仙台市	57条の2	宗村與四郎		住宅建設	官衛跡
234	郡山遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		〃	官衛跡
235	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	沼田千代志		作業場建設	集落跡
236	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	源波勝美		住宅建築	集落跡
237	今泉城跡	仙台市	57条の2	菅原義正		〃	館跡
238	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	岡本隆		倉庫建設	集落跡
239	植田前遺跡	白石市	57条の3	宮城県企業局		送水管理設工事	包含地
240	松田遺跡	白石市	57条の3	宮城県企業局		〃	集落跡
241	青木遺跡	白石市	57条の3	宮城県企業局		〃	集落跡
242	卯ノ崎古墳群（横倉古墳群）	角田市	57条の2	坂元廣喜		宅地造成	古墳
243	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	瀬川安弘		住宅建築	集落跡

昭和56年度

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
5	北目城跡	仙台市	57条の2	菅原平治		土取り	館跡
6	相川堤遺跡	大和町	57条の3	宮城県知事		県営圃場整備事業	包含地
7	南最知遺跡	気仙沼市	57条の2	小野寺政子		宅地造成	貝塚
9	鶴子坂館跡	石巻市	57条の2	阿部秀雄		土木工事による畑地の造成	館跡
11	栗遺跡	仙台市	57条の2	高橋俊治・幸子		住宅新築のための建設工事	集落跡
12	的場遺跡	仙台市	57条の2	奥山一也		住居新築	包含地
13	山口遺跡	仙台市	57条の2	相沢勇治		〃	集落跡
14	山田上ノ台遺跡	仙台市	57条の2	佐藤繁兵衛		〃	集落跡
15	泉崎浦遺跡	仙台市	57条の2	沼澤忠雄		〃	集落跡
16	経壇森経塚（七ツ森遺跡）	中田町	57条の2	宮城石灰工業㈱		土木工事	経塚
17	青木遺跡	白石市	57条の2	相原敏		住宅建設	集落跡
18	栗遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		小学校校舎等建築	集落跡
19	泉崎浦・伊古出・六反田遺跡、五本松窯跡	仙台市	57条の3	仙台市交通事業管理者		仙台市地下鉄建設工事	集落跡・窯跡
20	山口遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		体育館建設	集落跡
21	清水遺跡	名取市	57条の2	吉田地区圃場整備事業共同施行実行委員会		圃場整備事業	集落跡
22	今泉城跡	仙台市	57条の2	三浦重夫		住宅の新築	館跡
31	神明社窯跡	仙台市	57条の2	鈴木長吉		建築物の新築	窯跡
32	沖野城跡	仙台市	57条の2	佐藤新二		専用住宅の基礎工事	館跡
33	郡山遺跡	仙台市	57条の2	飯田義雄		住宅建築	官衛跡
34	品濃遺跡	角田市	57条の2	角田限東土地改良区理事長		排水溝改良工事	集落跡
35	山下遺跡	松島町	57条の3	宮城県道路公社理事長		道路建設	集落跡
36	館山城跡	松島町	57条の3	宮城県道路公社理事長		〃	館跡
37	今泉城跡	仙台市	57条の2	亀山定夫		住宅新築	館跡
38	華要害館跡	志津川町	57条の3	宮城県知事		現道拡幅工事	館跡
39	山田上ノ台遺跡	仙台市	57条の2	正陽興業㈱		住宅新築	集落跡
40	郡山遺跡	仙台市	57条の2	山口紘		解体新築	官衛跡
41	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	加藤勇		住宅新築	集落跡
42	郡山遺跡	仙台市	57条の2	赤井沢賛治		住宅改築	官衛跡
43	清田通遺跡	仙台市	57条の2	大広商事㈱		宅地造成	包含地
44	西台畑遺跡	仙台市	57条の2	住友セメント㈱		在来建屋の解体撤去	集落跡
45	今泉城跡	仙台市	57条の2	遠藤三男		住宅の新築	館築跡
46	今泉城跡	仙台市	57条の2	玉尾善一郎		〃	館跡
47	今泉城跡	仙台市	57条の2	佐々木茂樹		〃	館跡
48	山田上ノ台遺跡	仙台市	57条の3	太田豊吉		住宅建築	集落跡
49	土平遺跡	柴田町	57条の2	東北リコー㈱		駐車場建設	集落跡
50	吉野城跡	角田市	57条の3	角田市長		道路改良工事	館跡
51	大貫四島遺跡	田尻町	57条の3	田尻町長		道路改良	包含地
53	鹿島山遺跡	白石市	57条の2	八島勇一		宅地造成・耕地造成	包含地
54	新田柵外畳線	田尻町	57条の2	東北電力宮城支店		送電線鉄塔建設	官衛跡推定地
55	北小松遺跡	田尻町	57条の2	東北電力宮城支店		〃	包含地
56	天神西横穴古墳群	田尻町	57条の2	東北電力宮城支店		〃	横穴古墳
57	宮沢遺跡	古川市	57条の2	東北電力宮城支店		〃	官衛跡
58	宮沢遺跡	古川市	57条の2	東北電力宮城支店		〃	官衛跡

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
59	宮沢遺跡	古川市	57条の2	東北電力宮城支店		送電線鉄塔建設	官衙跡
60	宇南遺跡	古川市	57条の2	東北電力宮城支店		〃	包含地
61	西館遺跡	古川市	57条の2	東北電力宮城支店		〃	包含地
62	追戸横穴古墳群	涌谷町	57条の2	東北電力宮城支店		〃	横穴古墳
63	新田南遺跡	岩出山町	57条の2	東北電力宮城支店		〃	包含地
64	松森南遺跡	岩出山町	57条の2	東北電力宮城支店		〃	包含地
65	北目城跡	仙台市	57条の2	沼田茂治		土壌改良	館跡
66	明屋敷遺跡	仙台市	57条の2	阿部勝敏		宅地造成	包含地
67	牛小舎遺跡	仙台市	57条の2	大沼章		住宅新築	包含地
70	条里制跡推定地	白石市	57条の3	宮城県開発公社		工場団地造成	条里制跡推定地
72	新田遺跡	多賀城市	57条の2	加藤文三		宅地分譲	集落跡
73	上野遺跡	仙台市	57条の2	大里義夫		住宅解体・新築	集落跡
74	郡山遺跡	仙台市	57条の2	遠藤孝一・清子		増築	官衙跡
75	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	相原忠治		コンクリート基礎	集落跡
76	南小泉遺跡	仙台市	57条の3	菅原多利蔵		住宅建築	集落跡
77	春日社古墳	仙台市	57条の3	仙台市長		大野田コミュニティセンター建設	古墳
78	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	佐藤栄		住宅新築	集落跡
79	青葉山遺跡	仙台市	57条の2	大場啓発		専用住宅の新築	包含地
80	南小泉遺跡	仙台市	57条の3	沼田千代雄		RC共同住宅新築	集落跡
81	上野遺跡	仙台市	57条の2	馬渕等		解体新築	集落跡
82	郡山遺跡	仙台市	57条の2	鈴木武		飲食店新築による土木工事	官衙跡
83	郡山遺跡	仙台市	57条の2	安斎健次		専用住宅新築	官衙跡
86	西沢遺跡	多賀城市	57条の2	阿部きゑ子		専用住宅新築	包含地
87	上鳥居原遺跡	泉市	57条の2	宮沢健治		団体営ほ場整備	集落跡
88	後河原遺跡	仙台市	57条の2	守誠一郎		盛土	包含地
89	鴻ノ巣遺跡	仙台市	57条の2	早坂門之亟 関内和男		専用住宅地の分譲	集落跡
90	郡山遺跡	仙台市	57条の2	川村賢治		新築	官衙跡
91	仙台城跡	仙台市	57条の2	鈴木鉄夫		住宅新築	館跡
92	燕沢遺跡	仙台市	57条の2	今野新太郎		宅地造成工事	集落跡
93	大蓮寺窯遺跡	仙台市	57条の2	国際学友会仙台留学会館		物置増築工事	窯跡
94	伊達家廟	仙台市	57条の2	八木利紀		専用住宅増築工事	廟
95	安久東遺跡	仙台市	57条の2	荒川雄一		木造住宅新築	集落跡
96	稲荷館跡	仙台市	57条の2	阿部長蔵		住宅増築	館跡
97	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	高橋靖彦		住宅建築	集落跡
98	大野田六反田隣接地	仙台市	57条の2	鈴木誠		住宅新築	集落跡
99	国分寝館跡	仙台市	57条の2	百田秀人		事務所付住宅新築	館跡
100	長命館跡	泉市	57条の3	泉市長		搬出路取り付け工事	館跡
104	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	佐藤節男		住宅新築	集落跡
105	岩欠遺跡	瀬峰町	57条の3	宮城県知事		開拓地整備事業	集落跡
106	仙台城跡	仙台市	57条の2	相沢久治		専用住宅新築	館跡
107	大蓮寺窯跡	仙台市	57条の2	管野正夫		住宅新築	窯跡
109	明屋敷遺跡	仙台市	57条の2	鹿島道路㈱仙台支		新築工事	集落跡
110	郡山遺跡	仙台市	57条の2	仙台市長		更衣室増築	官衙跡
111	郡山遺跡	仙台市	57条の2	庄子たか子		住宅新築	官衙跡

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
112	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	岸波敏子		店舗付住宅・倉庫	集落跡
113	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	吉田正孝		共同住宅	集落跡
114	仙台城跡	仙台市	57条の2	菅原浩・響子		住宅新築	館跡
115	郡山遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		下水道事業	官衛跡
116	北屋敷遺跡	仙台市	57条の2	山口武太郎		住宅新築	包含地
117	栗遺跡	仙台市	57条の2	東武総業㈱		宅地造成施工	集落跡
118	郡山遺跡	仙台市	57条の2	庄子善重		〃	官衛跡
119	郡山遺跡	仙台市	57条の2	船渡徹		新築工事	官衛跡
120	千貫森館跡	三本木町	57条の2	小関信夫		宅地造成	館跡
121	鶴巻Ⅱ遺跡	仙台市	57条の2	東海林秋廣		専用住宅・作業場倉庫新築	包含地
122	入来田遺跡	仙台市	57条の2	山田武則		専用住宅新築による基礎工事	集落地
123	入来田遺跡	仙台市	57条の2	㈱積水ハウス仙台南㈱		建売住宅の新築	集落地
124	山口遺跡	仙台市	57条の2	相沢庸人		自宅新築のための基礎工事	集落地
125	沖野城跡	仙台市	57条の2	長島きよ		専用住宅新築	館跡
126	神明社窯跡	仙台市	57条の2	木皿善男		事務所・店舗付住宅建築	窯跡
130	農学寮跡地遺跡	宮城町	57条の3	宮城県知事		土地造成	包含地
132	鴻ノ巣遺跡	仙台市	57条の2	高橋一		住宅新築	集落跡
133	船渡前遺跡	仙台市	57条の2	板橋喜代志		住宅新築工事	包含地
134	牛小舎遺跡	仙台市	57条の2	末永昭		農業用倉庫	包含地
135	鶴巻Ⅰ遺跡	仙台市	57条の2	浅野松右衛門		住宅新築	包含地
136	四郎丸館跡	仙台市	57条の2	安藤義男		〃	館跡
137	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	村上登		倉庫建築の為の基礎工事	集落跡
138	小田原長命坂窯跡	仙台市	57条の2	栗佐静雄		住宅建設	窯跡
139	小田原長命坂窯跡	仙台市	57条の2	伊藤博夫		増築・基礎工事	窯跡
140	栗遺跡	仙台市	57条の2	守喜敏		住宅新築	集落跡
141	鴻ノ巣遺跡	仙台市	57条の2	今野光彦		〃	集落跡
142	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	毛利伸		木造住宅建築	集落跡
143	山王遺跡	多賀城市	57条の2	大友藤造		一般建売住宅の分譲	集落跡
144	土手内窯跡	仙台市	57条の2	仙南開発㈱		宅地整地工事	窯跡
145	郡山遺跡	仙台市	57条の2	但木茂雄		住宅増築工事	官衛跡
146	西台畑・郡山遺跡	仙台市	57条の3	仙台市ガス事業管理		ガス本管敷設工事	集落跡・官衛跡
147	郡山遺跡	仙台市	57条の2	ゼネラル石油㈱		ポンプ室・油脂室の増築	官衛跡
148	後河原遺跡	仙台市	57条の2	石川浩司		住宅新築工事	包含地
149	上野遺跡	仙台市	57条の2	大里鉄夫		〃	集落跡
150	下屋敷遺跡	大衡村	57条の3	大衡村長		村道改良工事	包含地
151	大平館跡	志津川町	57条の2	佐藤孝吉		漁網干場の造成	館跡
152	南小泉遺跡	仙台市	57条の3	青葉女子学園長		庁舎等新営工事	集落跡
153	小田原長命坂窯跡	仙台市	57条の2	村上洋二		住宅の建設	窯跡
154	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の2	佐々木道		住宅新築工事	包含地
155	鶴巻Ⅰ遺跡	仙台市	57条の2	平山浩		専用住宅新築	包含地
156	市川橋遺跡	多賀城市	57条の2	狩野修		自宅新築工事	集落跡
157	戸ノ内遺跡	仙台市	57条の2	菅野次郎		宅地造成	包含地
158	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		住宅建築	包含地
159	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
160	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		住宅建築	包含地
161	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
162	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
163	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
164	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
165	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		住宅新築工事	包含地
166	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
167	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
168	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
169	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
170	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
171	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
172	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
173	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
174	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
175	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
176	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
177	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
178	郡山遺跡	仙台市	57条の2	千葉昭司		解体	包含地
179	人来田遺跡	仙台市	57条の2	多田輝夫		専用住宅新築	集落跡
181	条里制跡推定地	白石市	57条の2	日本通信工業㈱			条里制跡推定地
182	鴻ノ巣遺跡	仙台市	57条の2	宮城県ツーバイフォー住宅建築協同組合		工場建設	集落跡
183	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		住宅新築工事	包含地
184	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
185	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
186	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
187	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
188	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
189	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
190	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
191	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
192	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の3	宮城県住宅供給公社		〃	包含地
193	鶴巻Ⅰ遺跡	仙台市	57条の2	佐藤憲		店舗増築	包含地
194	藤田新田遺跡	仙台市	57条の2	伊藤英子		専用住宅の増築工事	包含地
195	福田町遺跡	仙台市	57条の2	荘司格一		専用住宅の新築工事	包含地
196	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	後藤昌男		家屋新築	集落跡
197	六郎東遺跡	仙台市	57条の2	勝山企業		土地造成	包含地
198	堤田窯跡B地点	仙台市	57条の2	上川名東		宅地造成	窯跡
199	西沢遺跡	多賀城市	57条の2	市川稔		総社宮社務所新築工事	包含地
200	荒巻杉添窯跡	仙台市	57条の2	田村親哉		住宅用・ブロック用基礎	窯跡
201	袋東遺跡	仙台市	57条の2	庄子イト		住宅新築	包含地
202	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	増戸洋治		〃	集落跡
203	福田町遺跡	仙台市	57条の2	熱海栄		住宅工事	包含地
204	国分鞭館跡	仙台市	57条の2	ダイア建設㈱		共同住宅	館跡

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
205	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	宮城キセキ販売㈱		事務所の新築	集落跡
206	兜塚古墳	仙台市	57条の3	宮城県教育委員会教育長		第二総合運動場建設に伴う環境整備	前方後円墳
207	孫沢B遺跡	宮崎町	57条の3	宮城県知事		都道府県営農道整備事業 広域営農団地農道整備事業	包含地
208	大露路小露路遺跡	宮崎町	57条の3	宮城県知事		〃	包含地
209	地蔵館遺跡 地蔵館跡	宮崎町	57条の3	宮城県知事		農道整備事業	館跡・包含地
212	亘理城跡	亘理町	57条の3	亘理町長		町道拡幅改良工事	館跡
213	北目城跡	仙台市	57条の2	鈴木勝治		レストラン新築・駐車場	館跡
214	安養寺配水場前窯跡	仙台市	57条の2	(財)宮城県学校給食会		建築物の改築・新築	窯跡
215	仙台東郊条里跡	仙台市	57条の2	学校法人七郷学園		幼稚園新築工事	条里制跡推定地
216	福田町遺跡	仙台市	57条の2	荘司格一		物置の新築	包含地
217	若林城跡	仙台市	57条の3	宮城刑務所長		国家公務員宿舎新築	館跡
218	大笹遺跡	南方町	57条の3	南方町長		県道の拡張改良	包含地
219	青木遺跡	大河原町	57条の2	菅野勝政		住宅敷地に転用	包含地
220	青木遺跡	大河原町	57条の2	宮城県畜産農業協同組合連合会		家畜市場の建設	包含地
221	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	月館博		住宅増築	集落跡
222	仙台城跡	仙台市	57条の2	呂政成		専用住宅新築	館跡
223	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	植田孝正		住宅新築	集落跡
224	国分城跡	仙台市	57条の2	種澤和一		SRC9Fの基礎工事	館跡
225	御殿館	宮城町	57条の3	宮城町長		小規模林道開設	館跡
226	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	菅田昭		基礎工事	集落跡
227	郡山遺跡	仙台市	57条の2	松川二治		住宅増築工事	官衛跡
228	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	栗原清三		建築基礎工事	集落跡
229	鶴巻I遺跡	仙台市	57条の2	安藤清吉		農業用住宅・作業場新築	包含地
230	経ケ峯経塚跡	仙台市	57条の2	瑞鳳殿倉長		再建工事	廟
231	入来田遺跡	仙台市	57条の2	千田陽一		住宅新築	集落跡
232	小屋城跡	大郷町	57条の2	鈴木幸一		山砂採取	館跡
233	西沢遺跡	多賀城市	57条の2	志賀孝男		住宅建築の為整地	包含地
234	後河原遺跡	仙台市	57条の2	鈴木竹治		建売住宅新築	包含地
235	長根遺跡	築館町	57条の2	藤田成俊		土壌改良	包含地
236	西台畑遺跡	仙台市	57条の2	高橋貞男		住居増築	集落跡
237	仙台城跡	仙台市	57条の2	小泉忠		専用住宅新築	館跡
238	仙台城跡	仙台市	57条の2	斎藤司郎		寄宿舎新築	館跡
239	若林城跡	仙台市	57条の3	宮城刑務所長		鍛錬所新築	館跡
240	馬越石塚	仙台市	57条の3	宮城県公営企業管理者		調整池の築造工事	塚
241	沖野城跡	仙台市	57条の2	相原幸平治		専用住宅の新築	館跡
242	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	中島秀夫		住宅建築	集落跡
243	北目城跡	仙台市	57条の2	安斉善蔵		事務所新築	館跡
244	福岡館跡	泉市	57条の3	泉市長		参道の取付工事	館跡
247	千貫田・三代河原	丸森町	57条の3	宮城県知事		県営ほ場整備事業	包含地
248	燕沢遺跡	仙台市	57条の2	黒川邦彦		住宅の新築	集落跡
249	北目城跡	仙台市	57条の2	羽田信夫		倉庫の改築	館跡
250	柳遺跡	泉市	57条の3	泉市長		越中堰改修工事	包含地
251	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	佐藤健二		専用住宅新築	集落跡
252	沖野城跡	仙台市	57条の2	丹野久作		農業用倉庫の新築	館跡

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
253	六反田遺跡	仙台市	57条の2	庄子幸一郎・発		共同住宅建設	集落跡
255	中屋敷前遺跡	大河原町	57条の3	宮城県公営企業管理者		送水管布設工事	集落跡
256	大沼端遺跡	柴田町	57条の3	宮城県公営企業管理者		〃	包含地
257	上舞野A遺跡	大和町	57条の3	宮城県知事		県営ほ場整備事業	包含地
258	福田町遺跡	仙台市	57条の2	佐久間俊行		住宅増築	包含地
259	福田町遺跡	仙台市	57条の2	岡部義孝		住宅新築	包含地
260	富沢遺跡	仙台市	57条の2	仙台ミサワホーム㈱		〃	包含地
261	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	仙台中央ナショナル㈱		〃	集落跡
262	西台畑遺跡	仙台市	57条の2	伊勢産業㈱		宅地造成	集落跡
263	郡山遺跡	仙台市	57条の2	佐藤一嘉		住宅新築	官衙跡
264	矢の目遺跡	丸森町	57条の3	宮城県大河原土地改良事務所		用水障害対策事業	祭祀遺跡
265	相の川堤防遺跡	大和町	57条の3	宮城県知事		橋梁の架替・道路の改築	包含地
266	冥賀山館	丸森町	57条の3	丸森町長		道路盛土工事	館跡
267	千石城跡	松山町	57条の3	宮城県知事		急傾斜地崩壊防止工事	館跡
268	鶴巻I遺跡	仙台市	57条の2	和田清夫		専用住宅・車庫物置新築	包含地
269	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	直町嘉幸		住宅建替新築工事	集落跡
270	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	山口健司		住宅建築	集落跡
271	田子遺跡	仙台市	57条の2	浅野弘		建築物築造	包含地
272	福田町遺跡	仙台市	57条の2	渋谷芳治		〃	包含地
273	土手内横穴群	仙台市	57条の3	宮城県土木事務所		砂防工事	横穴古墳
274	鶴巻I遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		保育所建設	包含地
275	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	鈴木竹男		事務所・併用住宅	集落跡
276	郡山遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		車道増員・歩道設置	官衙跡
277	仙台城跡	仙台市	57条の2	佐藤チヅ子		住宅建築	城館跡
278	川野田古墳	角田市	57条の3	宮城県大河原土木事務所		県単道路改良工事	古墳
279	小田原長命坂窯跡	仙台市	57条の2	宮内正男		居宅改築	窯跡
280	人来田遺跡	仙台市	57条の2	佐藤次男		専用住宅新築工事	集落跡
281	仙台城跡	仙台市	57条の2	石母田博基		住宅の新築	館跡
282	鴻ノ巣遺跡	仙台市	57条の2	沼倉隆久		〃	集落跡
283	保呂羽館	登米町	57条の3	登米町長		宅地造成工事の残土整理	館跡
285	長者館跡	河南町	57条の3	石巻広域水道企事団		浄水場建設	館跡
286	上野遺跡	仙台市	57条の2	板橋新治		住宅建築	集落跡
287	袋東六反田山口遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		下水道工事	集落跡
288	新田遺跡	多賀城市	57条の2	木川田十三男		分譲住宅	集落跡
289	新田遺跡	多賀城市	57条の2	東北電力㈱宮城支店長		国鉄防護足場の仮設	集落跡
291	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	佐藤キエ		建物新築	集落跡
292	釜西古墳	石巻市	57条の2	斎藤敬一・他		整地	古墳
293	後河原遺跡	仙台市	57条の2	井筒慶治		専用住宅の建築	包含地
295	市川橋遺跡	多賀城市	57条の2	丸三土地開発㈱		宅地造成	集落跡
297	仙台城跡	仙台市	57条の2	高橋道孝		住宅新築	館跡
298	鴻ノ巣遺跡	仙台市	57条の2	加藤幸吉		〃	集落跡
299	神柵遺跡	仙台市	57条の2	㈱大崎商事		〃	包含地
300	仙台城跡	仙台市	57条の2	村主由美		〃	館跡
301	砂押屋敷遺跡	仙台市	57条の2	清野宿		〃	包含地

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
302	国分鞭館跡	仙台市	57条の2	川崎栄一		住宅新築	館跡
303	菖蒲沢遺跡	仙台市	57条の2	斎藤春男		〃	包含地
304	郡山遺跡	仙台市	57条の2	跡部邦明		住宅増築	官衛跡
305	仙台城跡	仙台市	57条の2	阿部信義		住宅新築	館跡
306	浄土遺跡	築館町	57条の3	築館町長		海洋センター庭康建設	包含地
307	仙台城跡	仙台市	57条の2	山内隆一		住宅新築	館跡
308	国分鞭館跡	仙台市	57条の2	鈴木正一		〃	館跡
309	仙台城跡	仙台市	57条の2	千葉公子		〃	館跡
310	北目城跡	仙台市	57条の3	仙台市水道事業管理者		水道管布設	館跡
311	上野遺跡	仙台市	57条の2	板橋吾平治		住宅新築	集落跡
312	山田上ノ台遺跡	仙台市	57条の2	堀内正		〃	集落跡
313	郡山遺跡	仙台市	57条の2	浅野菊治		〃	官衛跡
314	郡山遺跡	仙台市	57条の2	宍戸晃太郎		〃	官衛跡
315	郡山遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		水路改修工事	官衛跡
317	北屋敷遺跡	仙台市	57条の2	東海林久士		車庫新築	包含地
318	牛小舎遺跡	仙台市	57条の2	小窪利雄		住宅新築	包含地
319	兜塚古墳	仙台市	57条の2	(合)本場仙台平工場		上・下水道地下埋設	前方後円墳
320	山田上ノ台遺跡	仙台市	57条の2	早川智男		住宅新築	集落跡
321	大寺遺跡	高清水町	57条の3	宮城県知事		道路改良工事	集落跡
322	中河原遺跡	泉市	57条の3	宮城県知事		中小河川改修工事	包含地
323	亘理城跡	亘理町	57条の2	永田幸洋		客土工事	館跡
324	竹の内遺跡	泉市	57条の2	東北電力㈱宮城(支)		送電線鉄塔移設工事	包含地
325	舘遺跡	泉市	57条の2	東北電力㈱宮城(支)		〃	包含地
329	郡山遺跡・北目城跡	仙台市	57条の3	宮城電気通信部長		公衆電気通信施設設置	官衛跡
330	舘遺跡	泉市	57条の3	宮城県知事		中小河川改修工事	包含地
331	白萩B遺跡	白石市	57条の3	白石市長		道路改良工事	包含地
332	郡山遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		歩道新設工事	官衛跡
333	人来田遺跡	仙台市	57条の2	積水ハウス㈱仙台南営業所		住宅の新築	集落跡
334	泉崎浦遺跡	仙台市	57条の2	今村昭文		長屋	包含地
335	陸奥国分寺尼寺跡	仙台市	57条の2	高橋正松		共同住宅新築	寺院跡
336	郡山遺跡	仙台市	57条の2	東北電力㈱宮城(支)		宿舎建築	官衛跡
337	涌谷城跡	涌谷町	57条の3	宮城県知事		擁壁工	城館跡
338	長者舘	河南町	57条の3	石巻地方広域水道企業団		浄水場建設	城館跡
339	山の内館跡	泉市	57条の2	泉市中山土地区画整理組合		防災調整池工事	城館跡
340	上野山遺跡	仙台市	57条の2	菅原八代重・熊坂綾 郷古裳子・小野寺二郎		宅地造成	集落跡
341	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	加藤博之		建造物増築工事	集落跡
342	市川橋遺跡	多賀城市	57条の3	宮城県知事		交通安全施設の整備	集落跡
343	鶴巻遺跡	仙台市	57条の2	浅野孝		住宅新築	包含地
344	鶴巻遺跡	仙台市	57条の2	千田三男		車庫付住宅増改築	包含地
345	市川橋遺跡	多賀城市	57条の3	多賀城市長		農道舗装	集落跡
346	梁瀬浦遺跡	角田市	57条の3	宮城県知事		県営ほ場整備	集落跡
347	人来田遺跡	仙台市	57条の2	菅野文雄・恵美子		住宅の新築	集落跡
348	鶴巻I遺跡	仙台市	57条の2	斉藤治		住宅建築	集落跡
349	後河原遺跡	仙台市	57条の2	三浦秀子		〃	包含地

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
352	郡山遺跡	仙台市	57条の2	庄子達男		住宅新築	官衛跡
353	郡山遺跡	仙台市	57条の3	仙台市長		上水道配水管布設	官衛跡
354	保原平遺跡	白石市	57条の2	宮城県知事		現道舗装	集落跡
355	堤町窯跡	仙台市	57条の2	㈱ホープ土地開発		分譲マンション建設	窯跡
356	福田町遺跡	仙台市	57条の2	新浜不動産		専用住宅新築工事	集落跡
357	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	山崎啓祐		住宅新築	集落跡
358	仙台城跡	仙台市	57条の2	大和田嘉清		住宅建築	城館跡
359	若宮前遺跡	仙台市	57条の2	大橋町内会		地域集会所新築	包含地
360	仙台城跡	仙台市	57条の2	阿部正行		専用住宅の新築	城館跡
361	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	佐藤勝		貸事務所新築	集落跡
362	南小泉遺跡	仙台市	57条の2	箱崎満治		増築工事	集落跡
363	富沢遺跡	仙台市	57条の2	佐藤正巳		住宅の新築	集落跡
364	明屋敷遺跡	仙台市	57条の2	鹿島道路㈱仙台(支)		試験室・事務室新築	集落跡
365	三住出口遺跡	白石市	57条の3	宮城県知事		一般県道舗装整備	包含地
366	蔵王開拓E・F遺跡	白石市	57条の3	宮城県知事		一般県道凍雪害防止工事	包含地
367	高柳遺跡	泉市	57条の3	泉市長		下水工事に伴う推進工事	包含地

(3) 文化財保護法第57条の5・6による届出（遺跡の発見）

昭和56年度

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格
294	西中才遺跡	気仙沼市	57条の6	気仙沼市教育委員会			包含地
296	南山遺跡	丸森町	57条の6	宮城県教育委員会			包含地
351	蒲切沢遺跡	大衡村	57条の6	大衡村教育委員会			集落跡
316	戸平鍛冶跡	泉市	57条の5	泉市土地区画整理組合			鍛冶跡
350	篠崎横穴古墳群	丸森町	57条の6	丸森町教育委員会			横穴古墳

(4) 文化財保護法第98条の2による届出

・昭和56年度

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格	関連届出
1	天神館跡	岩出山町	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	河川改修に伴う事前調査	館跡	
2	青木遺跡	白石市	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	水道施設建設に伴う事前調査	集落跡	55年度241
3	松田遺跡	白石市	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	〃	集落跡	55年度240
4	植田前遺跡	白石市	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	〃	包含地	55年度239
8	南最知遺跡	気仙沼市	98条の2	気仙沼市教育委員会	気仙沼市教育委員会	宅造に伴う事前調査	貝塚	56年度7
10	小梁川遺跡	七ケ宿町	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	ダム建設に伴う事前調査	集落跡	
23	梨野A遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	宅地造成に伴う事前調査	集落跡	
24	今泉城跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	〃	館跡	
25	栗遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	学校建設に伴う事前調査	集落跡	
26	山口遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	体育館建設に伴う事前調査	集落跡	
27	燕沢遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	宅造に伴う事前調査	集落跡	
28	泉崎浦・伊古田・六反田・五本松遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	地下鉄建設に伴う事前調査	集落跡・窯跡	56年度19
29	滑水遺跡	名取市	98条の2	名取市教育委員会	名取市教育委員会	ほ場整備事業に伴う事前調査	集落跡	56年度21
30	南小泉遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	住宅建設に伴う事前調査	集落跡	
52	城生遺跡	中新田町	98条の2	中新田町長	中新田町教育委員会	重要遺跡緊急確認調査	官衛跡	

整理番号	遺跡名	所在地		調査主体者	調査担当者	原因	遺跡の性格	関連届出
68	館山山館跡	松島町	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	松島有料道路建設に伴う事前調査	館跡	
69	山下遺跡	松島町	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	〃	集落跡	
71	釜西古墳	石巻市	98条の2	石巻市教育委員会	石巻市教育委員会	宅地造成に伴う事前調査	古墳	55年度231
84	農学寮跡地遺跡	宮城町	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	学校建設に伴う分布調査	包含地	
85	名生館遺跡	古川市	98条の2	宮城県教育委員会	多賀城跡調査研究所	重要遺跡確認緊急調査	官衙跡	
101	長命館跡	泉市	98条の2	泉市教育委員会	泉市教育委員会	公園整備に伴う事前調査	館跡	56年度100
102	吉野城跡	角田市	98条の2	角田市教育委員会	角田市教育委員会	道路整備事業に伴う事前調査	館跡	56年度50
103	御堂平遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	文化財保護課	学校建設に伴う分布調査	集落跡	
108	治橋遺跡	松山町	98条の2	松山町教育委員会	松山町教育委員会	詳細分布調査	窯跡	
128	郡山遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	重要遺跡確認緊急調査	官衙跡	
129	西中才貝塚	気仙沼市	98条の2	気仙沼市教育委員会	気仙沼市教育委員会	道路建設に伴う事前調査	貝塚	56年度294
180	色麻古墳群	色麻町	98条の2	宮城県教育委員会	文化財保護課	ほ場整備に伴う分布調査	古墳群	
211	亘理城跡	亘理町	98条の2	亘理町教育委員会	文化財保護課	道路建設に伴う事前調査	館跡	56年度212
245	大平館跡	志津川町	98条の2	志津川町教育委員会	文化財保護課	土地造成に伴う事前調査	館跡	56年度151
246	南小泉遺跡	仙台市	98条の2	仙台市教育委員会	仙台市教育委員会	宅造に伴う事前調査	集落跡	
254	中新田城跡	中新田町	98条の2	中新田町教育委員会	中新田町教育委員会	都市計画街路建設に伴う事前調査	館跡	
284	長者館跡	河南町	98条の2	河南町教育委員会	文化財保護課	水道施設建設に伴う事前調査	館跡	56年度285
326	浄土遺跡	築館町	98条の2	文化財保護課	文化財保護課	樋庫建設に伴う事前調査	包含地	56年度306
327	白萩B遺跡	白石市	98条の2	白石市教育委員会	白石市教育委員会	市道建設に伴う事前調査	包含地	56年度331
328	舘遺跡	泉市	98条の2	泉市教育委員会	泉市教育委員会	河川改修に伴う事前調査	包含地	56年度330
368	篠崎横穴墓	丸森町	98条の2	丸森町教育委員会	丸森町教育委員会	遺跡の性格確認	横穴古墳	56年度350

宮城県文化財調査報告書刊行一覧

刊行年月日	報告書名
1954 (昭和29年3月)	宮城県文化財調査報告書第1集「仙台東照宮・遠見塚・かめ塚古墳」
1956 (昭和31年3月)	宮城県文化財調査報告書第2集「菜切谷廃寺跡」
1958 (昭和33年3月)	宮城県文化財調査報告書第3集「高蔵寺阿弥陀堂・高蔵寺の仏像」
1958 (昭和33年3月)	「陸奥国分寺跡発掘調査報告書」
1962 (昭和37年3月)	「昭和36年度多賀城発掘調査概報」
1963 (昭和38年3月)	「昭和37年度多賀城発掘調査概報」
1964 (昭和39年3月)	「昭和38年度多賀城跡発掘調査概報」
1965 (昭和40年3月)	宮城県文化財調査報告書第8集「埋蔵文化財緊急発掘調査概報 (崎山囲洞窟・糠塚古墳調査概報・田町裏遺跡・敷味遺跡・合戦原古墳群)」
1966 (昭和41年3月)	宮城県文化財調査報告書第9集「宮城県遺跡地名表」
1966 (昭和41年3月)	宮城県文化財調査報告書第10集「宮城の民俗(民俗資料緊急調査報告)」
1966 (昭和41年3月)	宮城県文化財調査報告書第11集「埋蔵文化財緊急発掘調査報告書(宇ノ崎古墳)」
1967 (昭和42年3月)	宮城県文化財調査報告書第12集「埋蔵文化財発掘調査報告書 (桝形横穴古墳群・鷹の巣古墳群・松崎古墳)」
1967 (昭和42年3月)	宮城県文化財調査報告書第13集「(新産業都市指定地区) 埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 (西ノ浜貝塚・三十三間堂)」
1967 (昭和42年12月)	宮城県文化財調査報告書第14集「埋蔵文化財緊急発掘調査報告書 陸奥国分寺跡東北部発掘調査報告」
1968 (昭和43年3月)	宮城県文化財調査報告書第15集「埋蔵文化財第三次緊急発掘調査概報(南境貝塚)」
1968 (昭和43年3月)	宮城県文化財調査報告書第16集「埋蔵文化財第二次緊急発掘調査概報(西ノ浜貝塚)」
1968 (昭和43年3月)	宮城県文化財調査報告書第17集「埋蔵文化財緊急調査概報 (東北縦貫自動車道遺跡地名表・同試掘調査略報)」
1968 (昭和43年3月)	「蔵王山麓民俗図誌(釜房ダム水没地区)」
1969 (昭和44年3月)	宮城県文化財調査報告書第18集「埋蔵文化財緊急調査概報 東北縦貫自動車道遺跡地名表・湯ノ倉館試掘調査概報」
1969 (昭和44年3月)	宮城県文化財調査報告書第19集「埋蔵文化財緊急発掘調査概報(長根貝塚)」
1969 (昭和44年3月)	宮城県文化財調査報告書第20集「埋蔵文化財第四次緊急発掘調査概報(南境貝塚)」
1969 (昭和44年3月)	宮城県文化財調査報告書第21集「蔵王山麓の社会と民俗」
1970 (昭和45年3月)	宮城県文化財調査報告書第22集「日の出山窯跡群」
1970 (昭和45年3月)	宮城県文化財調査報告書第23集「東北自動車道関係遺跡発掘調査概報 (下原田遺跡・二屋敷遺跡・持長地遺跡)」
1971 (昭和46年3月)	宮城県文化財調査報告書第24集 「東北自動車道関係遺跡発掘調査概報(刈田郡蔵王町地区)」
1972 (昭和47年3月)	宮城県文化財調査報告書第25集「東北自動車道関係遺跡発掘調査概報 (白石市:柴田郡村田町地区)」
1972 (昭和47年3月)	宮城県文化財調査報告書第26集「宮城県指定天然記念物球状斑れい岩調査報告」
1972 (昭和47年3月)	宮城県文化財調査報告書第27集「東北新幹線関係遺跡分布調査報告書 (地名表・試掘調査概報〈白石・高清水地区〉)」

1973 (昭和48年3月)	宮城県文化財報告書第28集「宮城県遺跡地名表」
1973 (昭和48年3月)	宮城県文化財調査報告書第29集「菅生田遺跡調査概報」
1973 (昭和48年3月)	宮城県文化財調査報告書第30集「東北新幹線関係遺跡発掘調査略報」
1973 (昭和48年3月)	宮城県文化財調査報告書第31集「東北自動車道関係遺跡発掘調査略報 (白石市・仙台市～大和町地区)」
1973 (昭和48年3月)	宮城県文化財調査報告書第32集「山畑装飾横穴古墳群発掘調査概報」
1973 (昭和48年3月)	宮城県文化財調査報告書第33集「金剛寺貝塚・今熊野遺跡調査概報」
1974 (昭和49年3月)	宮城県文化財調査報告書第34集「山中七ヶ宿の民俗」
1974 (昭和49年3月)	宮城県文化財調査報告書第35集「東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅰ(荒屋敷横穴古墳群・山下横穴古墳群・北沢遺跡・西野田遺跡・岩切鴻ノ巣遺跡・中ノ茎A遺跡)」
1974 (昭和49年3月)	「宮城県の古民家」(宮城県民家緊急調査報告書)
	第37集　欠　番
1975 (昭和50年3月)	宮城県文化財調査報告書第38集「宮前遺跡」
1975 (昭和50年3月)	宮城県文化財調査報告書第39集「土平遺跡発掘調査概報」
1975 (昭和50年3月)	宮城県文化財調査報告書第40集「宮城県文化財発掘調査略報(昭和48・49年度分)」
1975 (昭和50年3月)	宮城県文化財調査報告書第41集「天然記念物ヨコグラノキ北限地帯調査報告書」
1976 (昭和51年3月)	宮城県文化財調査報告書第42集「宮城県文化財発掘調査略報(昭和50年度分)」
1976 (昭和51年3月)	宮城県文化財調査報告書第43集「貞山堀運河」
1976 (昭和51年3月)	宮城県文化財調査報告書第44集「砂山横穴古墳群調査報告書」
1976 (昭和51年3月)	宮城県文化財調査報告書第45集「特別名勝松島(保存管理計画策定書)」
1976 (昭和51年10月)	宮城県文化財調査報告書第46集「宮城県遺跡地名表」
1976 (昭和51年10月)	宮城県文化財調査報告書第47集「宮城県遺跡地図」
1977 (昭和52年3月)	宮城県文化財調査報告書第48集「宮城県文化財発掘調査略報(昭和51年度分)」
1977 (昭和52年3月)	宮城県文化財調査報告書第49集「清太原西遺跡・船渡前遺跡」
1977 (昭和52年3月)	宮城県文化財調査報告書第50集「清水側遺跡」
1977 (昭和52年10月)	宮城県文化財調査報告書第51集「宮城県民俗分布図」緊急民俗資料分布調査報告書
1978 (昭和53年3月)	宮城県文化財調査報告書第52集「東北自動車道関係遺跡調査報告書Ⅰ(上深沢遺跡)」
1978 (昭和53年3月)	宮城県文化財調査報告書第53集「宮城県文化財発掘調査略報(昭和52年度分)」
1978 (昭和53年3月)	宮城県文化財調査報告書第54集「湯ノ坪遺跡」
1978 (昭和53年3月)	宮城県文化財調査報告書第55集「歴史の道調査結果略報」
1978 (昭和53年3月)	宮城県文化財調査報告書第56集「北沢遺跡」

1979 (昭和54年3月)	宮城県文化財調査報告書第57集「宮城県文化財発掘調査略報（昭和53年度分)」
1979 (昭和54年3月)	宮城県文化財調査報告書第58集「ほ場整備関連遺跡詳細分布調査報告書」
1979 (昭和54年3月)	宮城県文化財調査報告書第59集「宇南遺跡」
1979 (昭和54年3月)	宮城県文化財調査報告書第60集「歴史の道調査結果略報」
1979 (昭和54年8月)	宮城県文化財調査報告書第61集「五輪C遺跡」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第62集「東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅱ」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第63集「東北自動車道関係遺跡調査報告書Ⅱ」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第64集「ほ場整備関連遺跡詳細分布調査報告書」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第65集「東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅲ」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第66集「歴史の道調査報告書」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第67集「金剛寺貝塚・宇賀崎貝塚・宇賀崎一号墳他」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第68集「玉造遺跡」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第69集「東北自動車道関係遺跡調査報告書Ⅲ」
1980 (昭和55年3月)	宮城県文化財調査報告書第70集「金取遺跡」
1980 (昭和55年9月)	宮城県文化財調査報告書第71集「東北自動車道関係遺跡調査報告書Ⅳ」
1980 (昭和55年9月)	宮城県文化財調査報告書第72集「東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅳ」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第73集「宮城県遺跡地名表」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第74集「宮城県遺跡地図」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第75集「宮城県営ほ場整備関連遺跡調査報告書」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第76集「東北地建バイパス関連遺跡調査報告書」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第77集「東北新幹線関係遺跡調査報告書Ⅴ」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第78集「長者原貝塚・上新田遺跡」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第79集「仙南仙塩広域水道関係遺跡調査報告書」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第80集「歴史の道調査報告書」
1981 (昭和56年6月)	宮城県文化財調査報告書第81集「東北自動車道遺跡調査報告書Ⅴ」
1981 (昭和56年3月)	宮城県文化財調査報告書第82集「宮城県の民俗芸能」
1982 (昭和57年3月)	宮城県文化財調査報告書第83集「東北自動車道遺跡調査報告書Ⅵ」
1982 (昭和57年3月)	宮城県文化財調査報告書第84集「多賀城市水入遺跡発掘調査報告書」
1982 (昭和57年3月)	宮城県文化財調査報告書第85集「青木畑遺跡

1982 （昭和57年3月）	宮城県文化財調査報告書第86集「宮城県営ほ場整備関連遺跡等調査報告書」 （色麻農業祭行事）
1982 （昭和57年3月）	宮城県文化財調査報告書第87集「松島有料道路関連遺跡」（館山館・山下）
1982 （昭和57年3月）	宮城県文化財調査報告書第88集「仙南仙塩広域水道関係遺跡調査報告書Ⅱ」
1982 （昭和57年3月）	宮城県文化財調査報告書第89集「天神山遺跡」
1982 （昭和57年3月）	宮城県文化財調査報告書第90集「文化財発掘調査略報」